

公衆衛生系専門職大学院

自己点検・評価報告書

平成 25 年 4 月

九州大学 大学院医学系学府

医療経営・管理学専攻

目 次

序 章	2
本 章	
1 使命及び目的	3
2 教育の内容・方法・成果	8
2－(1) 教育課程等	8
2－(2) 教育方法等	16
2－(3) 成果等	33
3 教員組織	39
4 学生の受け入れ	51
5 学生生活	56
6 教育研究環境	63
7 管理運営	67
8 点検・評価及び情報公開	70
終 章	74

〈序章〉

九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻は、「専門分化した医療技術を、『安心・納得・一体感』を持って支援できるよう、統合・調整・組織化できる高度な専門職業人を育成」することを目的として平成13年4月に開学し、すでに平成23年度までに10期200名を超える修了生を社会に送り出し、医療機関、大学、行政などで活躍をしている。

本専攻では、「学校教育法」第109条第3項に規定する認証評価を受けるべく、文部科学大臣より公衆衛生系専門職大学院の評価機関として認証されている「公益財団法人大学基準協会」に平成25年度の公衆衛生系専門職大学院認証評価の受審申請を行った。

認証評価の受審に先だって、本専攻内に「専攻運営会議」の下部組織として「自己点検・評価委員会」を組織し、認証評価の準備を進めてきたところである。

本報告書は、認証評価を受けるにあたって、以下の8つの大項目に沿って、「医療経営・管理学専攻自己点検・評価委員会」が、開学時より平成24年3月までの本専攻の教育研究活動及び管理体制について、現状、自己点検・評価、将来への取組みをまとめたものである。

- | | |
|---|-------------|
| 1 | 使命及び目的 |
| 2 | 教育の内容・方法・成果 |
| 3 | 教員組織 |
| 4 | 学生の受け入れ |
| 5 | 学生生活 |
| 6 | 教育研究環境 |
| 7 | 管理運営 |
| 8 | 点検・評価及び情報公開 |

平成25年4月

九州大学大学院医学系学府

医療経営・管理学専攻

自己点検・評価委員会

教授 馬場園 明（専攻長）

教授 尾形 裕也

教授 萩原 明人

准教授 鮎澤 純子

〈本章〉

1 使命及び目的

[現状の説明]

目的の適切性

(評価の視点 1－1)

当該公衆衛生系専門職大学院固有の目的が明文化されているか。 (「大学院」第 1 条の 2)

本専攻の目的は、「専門分化した医療技術を、人々が「安心・納得・一体感」を持って生活し、人生を過ごせるよう統合・調整組織化できる高度な専門職業人を育成すること」であり、当専攻の学生募集要項に明記してある。また、教育内容において、「本専攻は、疫学・生物統計学等を基盤に、欧米の大学院の中核学科である医療政策・医療経営・医療管理の分野に、本専攻の特色として医療コミュニケーションの分野を加えて構成し、医療・保健に関する幅広い問題について総合的な教育研究を行う」としている。これは「学校教育法」第 65 条に則して制定している九州大学学則に示されている「専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的」とするという主旨に合致している。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-1 平成 25 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程（専門職大学院）学生募集要項（7 頁）
- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（1 頁）
- ・別添資料 1-3 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程 パンフレット（表紙裏）
- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
学生募集要項 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_4.html
授業計画 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_3.html
- ・別添資料 1-4 九州大学学則（3 頁）

(評価の視点 1－2)

当該公衆衛生系専門職大学院固有の目的が、専門職学位課程制度の目的と整合したものであるか。 (「専門職」第 2 条)

本専攻の学生募集要項には、「専攻の学生は明確な目的意識をもって入学することを想定しており、教育は、医療経営・管理に必要な共通の基礎的な知識の習得の上に、学生個々の目的・適性・能力等に応じ、指導教員の指導により、さらなる専門的、実践的な知見を深めることを目指す」と明記されており、目的等は、「高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培う」（専門職大学院設置基準第 2 条第 1 項）という

専門職大学院制度の目的に整合したものである。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-1 平成 25 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程（専門職大学院）学生募集要項（7 頁）
- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（1 頁）

目的の周知

（評価の視点 1－3）

当該公衆衛生系専門職大学院固有の目的は、教職員、学生等の学内の構成員へ周知が図られているか。また、ホームページや大学案内等を通じ、社会一般に公表されているか。（「大学院」第 1 条の 2）

本専攻の目的については、本専攻の学生募集要項、授業計画、パンフレット及びウェブサイトに掲載しているほか、オープンスクール、公開講座等で社会一般に公表している。教職員に対しては、本専攻の学生募集要項の配付や「専攻運営会議」での審議を通して周知を図っている。学生に対しては、入学時のオリエンテーションにおいて、本専攻の目的や授業内容について授業計画等を用いて説明するとともに、質疑応答を通して理解を深めている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-1 平成 25 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程（専門職大学院）学生募集要項（7 頁）
- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（1 頁）
- ・別添資料 1-3 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程 パンフレット（表紙裏）
- ・別添資料 1-5 オリエンテーション資料「九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻の概要」
- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
学生募集要項 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_4.html
授業計画 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_3.html
- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報（37-38 頁）

特色ある取組み

(評価の視点 1－4)

当該公衆衛生系専門職大学院固有の目的に関して、特色 1-4 として強調すべき点はあるか。また、固有の目的を実現するための中長期のビジョンあるいは戦略があるか。

急速で、深刻な少子高齢化を背景に我が国の医療の現場では、医療の地域格差、医療崩壊、医療安全、医療従事者の労働環境などの問題が指摘されており、医療の質を改善していくことが要求されている。本専攻では、平成 20 年度、21 年度に文部科学省大学改革推進経費の補助を受け、PDCA サイクルを回し、「医療関係者の問題解決能力の向上に資するプログラムの開発」を行った。平成 23・24 年度は、その成果を踏まえ、学内の教育の質向上支援プログラム (EEP) の支援を受け、「医療の質改善のための評価教材の開発-診療プロセスで発生するデータを用いた医療の質の改善を図る教育教材の開発-」を行った。

実施・評価・改善のための組織体制としては、平成 20 年度、21 年度に文部科学省大学改革推進経費、「医療関係者の問題解決能力の向上に資するプログラムの開発」の実施体制を生かし、意思決定機関として、「推進プログラム検討委員会」を設置した。構成メンバーは、九州大学医療経営・管理学講座の教員 6 名、福岡県保健医療介護部 1 名、福岡県看護協会 1 名、九州大学病院看護部 1 名、済生会熊本病院事務部 1 名、田川市立病院事業管理者 1 名とし、年 2 回程度開催し、教材開発に関し、学生の進路先の意見を組み込む仕組みを構築した。

中期目標としては、「保健医療の実践にあたり中心的役割を担えるよう、専門的知識を持った人材を養成する」ことと、「現場の問題に対し、目的を明確にし、具体的に対策を組み立て、結果を評価し、改善する能力を育成する」ことを目標として掲げている。そのために、ゼミ活動においては、現場の問題に対し、具体的に対策を組み立て、結果を評価し、改善する能力を育成することを重視し、「医療関係者の問題解決能力の向上に資するプログラムの開発」及び「医療の質改善のための評価教材の開発-診療プロセスで発生するデータを用いた医療の質の改善を図る教育教材の開発-」で作成した教材を用いている。その結果、電子レセプト、急性期病院の診断別支払に関する DPC (Diagnosis Procedure Combination) データを利用した医療経営・管理に関する研究、教材作成、現場の業務改善のためのツール作成、ビジネスモデルの構築、現場での調査に基づく研究などが最終成果物のテーマとなっている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-7 平成 21 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報 (56-61 頁)
- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報 (37-38 頁)

〔点検・評価（長所と問題点）〕

医学系学府医療経営・管理学専攻の目的は明文化されており、この内容は「専門職大学院設置基準」第2条1項に整合しているとともに、「九州大学学則」の主旨に沿っている。本専攻の目的については、本専攻の学生募集要項、授業計画、パンフレット及びウェブサイトに掲載し、公開講座等でも紹介し、学生、入学希望者に周知を図っている他、社会に向けても発信している。教職員に対しては、刊行物の配付、「専攻運営会議」での審議等を通じて、一定の周知が図られている。

当専攻の中期目標の達成に向けて、平成20年度、21年度に文部科学省大学改革推進経費の補助を受け、PDCAサイクルを回し、「医療関係者の問題解決能力の向上に資するプログラムの開発」を実施するとともに、平成23・24年度は、その成果を踏まえ、学内の教育の質向上支援プログラム（EEP）の支援を受け、「医療の質改善のための評価教材の開発-診療プロセスで発生するデータを用いた医療の質の改善を図る教育教材の開発-」を行い、教育教材を開発してきているところが長所であると考えられる。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-4 九州大学学則（3頁）
- ・別添資料 1-1 平成25年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程（専門職大学院）学生募集要項（7頁）
- ・別添資料 1-2 平成24年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（1頁）
- ・別添資料 1-3 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程 パンフレット（表紙裏）
- ・別添資料 1-5 オリエンテーション資料「九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻の概要」
- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
学生募集要項 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_4.html
授業計画 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_3.html
- ・別添資料 1-6 平成23年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報（37-38頁）
- ・別添資料 1-7 平成21年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報（56-61頁）

〔将来への取組み・まとめ〕

当専攻の中期目標の達成に向けて、「医療関係者の問題解決能力の向上に資するプログラムの開発」及び「医療の質改善のための評価教材の開発-診療プロセスで発生するデータを用いた医療の質の改善を図る教育教材の開発-」の取組みなどで教材を作成し、現場の問

題に対し、具体的に対策を組み立て、結果を評価し、改善する能力を育成する教育を行ってきた。今後も国内外の医療機関、行政、専門職団体などと連携し、最新の専門知識を備えた人材を養成していきたい。

2. 教育の内容・方法・成果

(1) 教育課程等

[現状の説明]

教育課程の編成

(評価の視点 2-1)

専門職学位課程制度の目的及び当該公衆衛生系専門職大学院固有の目的を達成するためにふさわしい授業科目が開設されているか。(「専門職」第6条)

本専攻の目的である「専門分化した医療技術を、安心・納得・一体感を持って支援できるよう、統合・調整・組織化できる高度な専門職業人を育成」するために、授業科目は、表 2-1 に示すように、①医療学基礎科目群、②共通基礎科目群、③必修専門科目群、④選択専門科目群に分けられている。

「医療学基礎科目群」は、「医学概論」、「分子医学概論」、「内科学」及び「外科学」からなり、医学・医療に関する基礎知識の上に立って専攻教育を行うためのものである。そのため、非医系学生（医学、歯学、薬学、保健学、看護学以外の学部又は学科の卒業者）に対しては必修科目となっている。また、大学卒業後時間が経過し、最新の医学・医療に関する基礎知識を身につけたい医療系学生も受講できるようにしている。「共通基礎科目群」は、各分野において履修する上での基礎的知識を修得するための共通科目であり、公衆衛生学の共通の基盤となる「医療保障法」、「疫学」、「医学統計学」、「医療情報学」、「社会医学」が含まれている。「必須科目群」は、「医療政策学」、「医療財政学」、「医療経営学」、「医療管理学」、「医療コミュニケーション学 I」、「演習 I」、「演習 II」からなり、医療経営・管理の専門職を養成するために不可欠な科目である。「選択専門科目群」は、主に、「医療政策学分野」、「医療経営学分野」、「医療管理学分野」、「医療コミュニケーション学分野」といった医療経営・管理に必要な幅広い領域をカバーするものになっている。さらに、「時代性のあるテーマをタイムリーに」という趣旨で毎年「特別選択科目」も開設しており、全体として、専門職学位課程制度の目的及び公衆衛生系専門職大学院固有の目的を達成するためにふさわしい授業科目が開設されている。

表 2-1 当専攻の科目群、科目数、単位

科目群	科目名	単位	科目群	科目名	単位
医療学基礎科目群	医学概論	1	選択専門科目群	薬事情報学	1
医療学基礎科目群	分子医学概論	1	選択専門科目群	医療経済学	2
医療学基礎科目群	内科学	1	選択専門科目群	医療マーケティング論	2

医療学基礎科目群	外科学	1	選択専門科目群	医療人事管理論	2
共通基礎科目群	医療保障法	2	選択専門科目群	医療財務理論	2
共通基礎科目群	疫学	2	選択専門科目群	病院管理論	2
共通基礎科目群	医学統計学	2	選択専門科目群	医療訴訟論	2
共通基礎科目群	医療情報学	1	選択専門科目群	ケアコミュニケーション論	2
共通基礎科目群	社会医学	1	選択専門科目群	医療人間学	2
共通基礎科目群	医療行政学	2	選択専門科目群	病院コミュニケーション論	2
必修専門科目群	医療政策学	2	選択専門科目群	医療オーガナイズ論	2
必修専門科目群	医療財政学	2	選択専門科目群	医療コミュニケーション学 II	2
必修専門科目群	医療経営学	2	選択専門科目群	医療分析学 I	2
必修専門科目群	医療管理学	2	選択専門科目群	医療分析学 II	2
必修専門科目群	医療コミュニケーション学 I	2	選択専門科目群	インフォームド・コンセント	1
必修専門科目群	演習 I	1	選択専門科目群	衛生学	1
必修専門科目群	演習 II	1	選択専門科目群	医療制度改革論	2
			選択専門科目群	医療安全管理論	2

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-1 平成 25 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程（専門職大学院）学生募集要項（9-11 頁）
- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（5-9, 13-87 頁）

・別添資料 1-3 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程 パンフレット（1 頁）

・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト

授業計画 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_3.html

（評価の視点 2－2）

公衆衛生系専門職に必要な能力を養成する教育内容が、開設科目等の中で適切に計画され、適切に実施されているか。

公衆衛生系における教育の共通の基盤となる科目は、「疫学」、「医療統計学」、「環境科学」、「保健医療管理学」、「社会及び行動科学（医療倫理学含む）」である。「疫学」、「医学統計学」は、各分野において履修する上での基礎的知識を修得するための「共通基礎科目群」に含まれる。「環境科学」は選択科目の「衛生学」がこれに当たる。「保健医療管理学」に関する科目としては、医療経営・管理の専門職を養成するために不可欠な科目として位置づけられている必修科目群である「医療政策学」、「医療財政学」、「医療経営学」、「医療管理学」がこれにあたる。また、「共通基礎科目群」の「医療保障法」、「医療情報学」も「保健医療管理学」に関する科目である。「社会及び行動科学（医療倫理学含む）」に関する科目としては、必修科目である「医療コミュニケーション学 I」、選択専門科目群の「医療コミュニケーション学 II」、「ケアコミュニケーション論」、「病院コミュニケーション論」、「医療人間学、インフォームド・コンセント等」を開設している。したがって、公衆衛生系における教育の共通の基盤となる、「疫学」、「医療統計学」、「環境科学」、「保健医療管理学」、「社会及び行動科学（医療倫理学含む）」のすべての内容をカバーしていることになる。

また、1 年次の講義を踏まえ、2 年次には 1 年間の演習の中で具体的な成果物を作成することを通じ、高度専門職業人として必要な実践的能力の養成を図っている。さらに、医療系、非医療系等、学生のバックグラウンドやニーズに応じ、シラバスに 2 年間の履修科目のモデルを複数提示している。これらを通じて、公衆衛生系専門職に必要な能力を養成する教育内容が、開設科目の中で適切に計画され、適切に実施されている。

【根拠・参照資料】

・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（1-9 頁、86-87 頁）

（評価の視点 2－3）

当該公衆衛生系専門職大学院固有の目的に応じて、それぞれの分野の教育課程が次に掲げるような事項を踏まえた内容になっているか。

(1)教育課程が、公衆衛生系分野の研究動向を踏まえ、実務に必要な専門知識、思考力、分析力、表現力等を修得させると共に、高い倫理観・国際的視野を持つプロフェSSIONALの人材を

養成する観点から適切に編成されているか。

各科目では、教員がそれぞれの分野における研究動向をふまえ、体系的な教育とともに時代性のある教育を行っている。また実務に必要な専門知識、思考力、分析力を習得するべく、講義形式のみならずグループワーク、ディスカッション、ケースメソッドなどの教育方法を実践している。演習においてはもちろんのこと、一般科目においても学生による発表も活用し、プレゼンテーション力の涵養を図っている。倫理観に関しては、特に、「医学概論」、「医療行政学」、「医療人間学」、「インフォームド・コンセント」等の諸科目において取り上げるとともに、その他の各科目においても、共通する倫理的観点からの教育を行っている。国際的な視野に関しては、「医療政策学」、「医療財政学」等において諸外国の医療制度改革の動向等を紹介するとともに、医療経済学等英語のテキストを講義（輪読形式）に使用し、英語の読解力の涵養を図っている科目もある。これらを通じ、「高度専門職業人」たる人材を養成する内容で適切に教育課程を編成している。

(2) 公衆衛生系の共通の基盤となる、疫学、医療統計学、環境科学、保健医療管理学、社会及び行動科学(医療倫理学を含む)に関する内容を基本に、幅広い科目を適切に学べる教育課程の編成に配慮しているか。

「疫学」、「医学統計学」については、「共通基礎科目群」の科目として設定し、環境科学については、選択専門科目群の「衛生学」において扱っている。また、「疫学」、「医学統計学」については、「医療オーガナイズ論」、「医療分析学 I」、「医療分析学 II」、「医療情報学」においてもその応用方法を教育している。保健医療管理学については、必修専門科目群、選択専門科目群において設定している多数の授業科目を通じ、医療・保健に関する幅広い問題について医学及び社会・人文諸科学的な観点から総合的な教育研究指導が行われている。また、社会及び行動科学に関しては、「医療コミュニケーション学 I」、「医療コミュニケーション学 II」、「ケアコミュニケーション論」、「病院コミュニケーション論」、「医療人間学、インフォームド・コンセント等」の諸科目において扱っている。

(3) 基本的な内容、展開的な内容、実践的な内容、事例研究等を取扱う科目が開設され、かつ、段階的な教育を行うことができるよう教育課程が編成されているか。

教育課程の編成については、1年次に基礎的な知識・能力の習得に配慮し、2年次において、展開的、実践的な応用能力を段階的に涵養できるよう配慮している。また、これまで開発したケース教材による事例研究や、実際の病院経営管理者、医療行政担当官等による講義、さらには病院見学等を取り入れており、実践的な教育内容となるよう配慮している。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-1 平成 25 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程（専門職大学院）学生募集要項（9-11 頁）
- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（5-9、13-87 頁）
- ・別添資料 1-3 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程 パンフレット（1、3 頁）
- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
授業計画 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_3.html

履修科目登録の上限

（評価の視点 2－4）

学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、学生が 1 年間又は 1 学期間に履修登録できる単位数の上限が設定されているか。（「専門職」第 12 条）

1 学期に履修登録できる単位数については 25 単位を上限としていることを「九州大学大学院医学系学府規則」で定め、シラバスに明記している。さらに、オリエンテーションでも学生に通知している。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 2-1 九州大学大学院医学系学府規則（5 頁）
- ・別添資料 2-2 医療経営・管理学専攻入学オリエンテーションプログラム
- ・別添資料 1-1 平成 25 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程（専門職大学院）学生募集要項（9 頁）
- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（3 頁）
- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
授業計画 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_3.html

課程の修了等

（評価の視点 2－5）

授業科目の特徴、内容、履修形態、その履修のために要する学生の学習時間（教室外の準備学習・復習を含む）等を考慮して、適切な単位が設定されているか。（「大学」第 21 条、第 22 条、第 23 条）

「九州大学大学院通則」では、1 単位の授業科目を 45 時間、実験、実習及び実技については 30 時間から 45 時間と定めてある。当専攻の講義による授業回数は 1 単位の科目では 8 回（90 分授業）、2 単位の科目では 15 回（90 分授業）行っている。試験やレポートの作成な

どの教室外の学習を含めると1単位当たり45時間以上の学習を要している。また、演習も1単位につき15回(90分授業)実施しているが、卒業成果物の作成や指導時間を含めると45時間以上の学習を要する。そのため、授業時間外の学習時間を確保し、無理なく授業科目を履修できるよう、1学期間の履修単位の上限を設定し、十分な自己学習の時間の確保を可能にしている。社会人学生に配慮して、火曜日から木曜日に集中的な授業科目を配置し、効率的な自己学習の時間の確保にも配慮している。さらに、学生の自主学習を促すために、シラバス及びオリエンテーションにおいて授業内容や方法を周知するとともに、オフィスアワーや修学相談の項目をシラバスに記載し、コミュニケーションの機会を確保している。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 2-3 九州大学大学院通則 (5 頁)
- ・別添資料 1-1 平成 25 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程(専門職大学院)学生募集要項 (9 頁)
- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画 (1-4, 14-85 頁、89-90 頁)
- ・別添資料 1-3 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程)パンフレット (4 頁)
- ・別添資料 1-5 オリエンテーション資料「九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻の概要」
- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
授業計画 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_3.html

(評価の視点 2-6)

課程の修了認定に必要な在学期間及び修得単位数が、法令上の規定や当該公衆衛生系専門職大学院固有の目的に即して適切に設定されているか。また、それらが、学生の履修負担を過重とさせないように配慮して設定されているか。(「専門職」第2条、第3条、第15条)

修了認定基準は、非医系学生、医系学生それぞれに作成している。非医系学生は、「医療学基礎科目群」を4単位、「共通基礎科目群」6単位、「必修専門科目群」12単位、「選択専門科目群」の履修を含めて2年間で30単位以上の履修を修了要件としている。また、医系学生は、「共通基礎科目群」6単位、「必修専門科目群」12単位、「選択専門科目群」の履修を含めて2年間で30単位以上の履修を修了要件としている。これは法令上の規定を遵守しているとともに、各科目の負荷量、これまでの履修状況等を勘案すれば、適切な単位数の設定であると考えられる。なお、必修科目の講義を火曜日に集中して開講し、演習も火曜日の夜に行っている。また、必修科目以外の講義についても水曜日、木曜日に集中的に行い、社会人学生に配慮した対応を行っている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-1 平成 25 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程（専門職大学院）学生募集要項（10-11 頁）
- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（3 頁）
- ・別添資料 1-3 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程 パンフレット（1 頁）
- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
授業計画 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_3.html

（評価の視点 2－7）

課程の修了認定の基準及び方法が当該公衆衛生系専門職大学院固有の目的に応じて策定され、学生に周知・共有されているか。（「専門職」第 10 条）

課程の修了認定の基準及び方法はシラバスに「医系学生、非医系学生ともに、2 年以上在学し、指定の授業科目から 30 単位以上を修得」する旨記載されており、シラバスの配布や入学オリエンテーションプログラムの教務関係の説明により学生に周知・共有されている。なお、シラバスは、本専攻のホームページにも掲載している。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-1 平成 25 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程（専門職大学院）学生募集要項（9 頁）
- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（3 頁）
- ・別添資料 1-3 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程 パンフレット（1 頁）
- ・別添資料 2-2 医療経営・管理学専攻入学オリエンテーションプログラム
- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
授業計画 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_3.html

（評価の視点 2－8）

在学期間の短縮を行っている場合、法令上の規定に沿ってなされているか。また、その場合、当該公衆衛生系専門職大学院固有の目的に照らして十分な成果が得られるよう配慮がなされているか。（「専門職」第 16 条）

該当しない

特色ある取組み

(評価の視点 2－9)

教育課程の編成等に関して、特色として強調すべき点、ないし検討課題はあるか。

理論と実務の双方を踏まえた体系的な教育課程の編成を行い、必修科目における基本的知識の修得を踏まえつつ、選択科目における高度の応用へと学生が自らの関心と問題意識に応じて科目を選択できる点が挙げられる。特に、2年次における演習を通じた理論と実務の統合教育の実施は有効であると考えられる。また、表 2-9 のように九州大学の他の 3 つの専門職大学院と相互履修科目も設けている。様々なニーズをもった学生に対して多様な講義を受ける機会を与えるだけではなく、今後の実務に有益な人的ネットワーク作りにも大いに寄与することが考えられる。本専攻においては、2 年目からの履修となっているが、「相互履修」に関するオリエンテーションを通して他の専門職大学院に関する情報を得て、他の専門職大学院とコンタクトを取り相互履修科目以外の講義の聴講を願いでるなど、学生への多様な教育の提供の機会となっている。

表 2-9 専門職大学院との相互履修科目

専攻名	科目名	単位数
経済学府産業マネジメント専攻	マーケティング戦略	2
	産学連携マネジメント	2
	知識マネジメント	2
	企業価値創造と M&A	2
人間環境学府実践臨床心理学専攻	産業・組織臨床心理学特論	2
	司法・矯正臨床心理学特論	2
法科大学院	インターネットと法	2
	企業法務	2

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-1 平成 25 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程（専門職大学院）学生募集要項（7-11 頁）
- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（5-9、86-87 頁）
- ・別添資料 1-3 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程）パンフレット（1、3 頁）
- ・別添資料 1-5 オリエンテーション資料「九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻の概要」
- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
授業計画 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_3.html

〔点検・評価（長所と問題点）〕

医学系学府医療経営・管理学専攻においては、専門職学位課程制度の目的及び公衆衛生系専門職大学院固有の目的を達成するためにふさわしい授業科目が開設されているとともに、公衆衛生系専門職に必要な能力を養成する教育内容が、開設科目の中で段階的に適切に計画され、実施されている。特に、「医療学基礎科目群」、「共通基礎科目群」、「必修専門科目群」、「選択専門科目群」の区分により、講義から演習に至る多様な教育方法を通じ、体系的かつ段階的に実践的能力の養成を図っている。その結果、医療経営・管理学分野における高度専門職業人に求められる最新の理論と実務の統合が2年間の就学を通じて無理なく行える教育課程が編成されている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-1 平成 25 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程（専門職大学院）学生募集要項（9-11 頁）
- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（5-9, 13-87 頁）
- ・別添資料 1-3 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程 パンフレット（1 頁）
- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
授業計画 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_3.html

〔将来への取組み・まとめ〕

2 年次における演習については、学生の実践的能力の養成という観点から、早期におけるオリエンテーションの実施を通じ、問題意識の喚起を図るとともに、学生の希望や能力に応じ、分析方法や事例研究の教育を補完的に実施する等、さらにその充実を図っていく必要がある。また、本専攻の教育課程等の特色については、今後もウェブサイト、オープンスクール、公開講座等で社会一般に公表し、新任の教員などにもオリエンテーションなどを行い、周知していく必要がある。

（2）教育方法等

〔現状の説明〕

履修指導及び学習相談等

（評価の視点 2-10）

学生の多様性（例えば、履修歴や実務経験の有無等。）に応じて、学生の学習に関する指導、相談が行われているか。

入学時に、シラバス等を利用し、学生全員を対象としたオリエンテーションを行い、学

習に関する指導を行うとともに、今後の指導・相談の方法についての説明を行っている。

また、学生全員に対して、個人の心身の健康から修学にかかわる問題や奨学金も含めた経済的問題に相談にのるために、教員を決めた担任制をとっている。2年次においては演習の指導教員制を通じて、少人数の学生に対して担当教員を配置し、学生の履修歴や実務経験等やニーズに応じた個別の履修指導や学習相談を行い、学生の多様性を踏まえた適切な助言を行っている。

【根拠・参照資料】

・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（1-4、89-90）、93-96 頁）

・別添資料 1-5 オリエンテーション資料「九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻の概要」

授業の方法等

（評価の視点 2-11）

実践教育を充実させるため、現場における専門的な研究・調査・実習又は双方向、多方向に行われる討論若しくは質疑応答、その他の適切な方法により授業を行うなど、適切な配慮がなされているか。（「専門職」第 8 条第 1 項）

必修科目及び選択科目においては、病院・診療科・手術の見学や SPD(Supply Processing&Distribution;院内物流)の倉庫見学・裁判所見学など、現場に出向いての教育の機会を積極的に設けている。また、教員は各担当科目のなかで必要に応じて医療経営管理の領域で特色ある成果を挙げている病院の経営者・管理者など、現場における第一線の実務者や専門家を招き、講義のみならず討論・質疑の機会を設け、実践教育の充実を図っている。また、教育方法については、教材としてケースを活用したケーススタディを行ったり、講義形式については、グループワークディスカッションやケースメソッドなどを活用したりするなど、科目によって適切な方法で行っている。表 2-11 に、特徴ある授業：フィールドワークと特色ある授業形態について示した。

表 2-11 医療経営・管理学専攻において重視している授業形態上の特色の例

特徴ある授業：フィールドワーク

- ① 医療人事管理論：裁判所の民事訴訟の法廷での口頭弁論見学
- ② 病院管理論：SPD流通施設見学
- ③ 病院コミュニケーション論：大学病院診療科の見学およびカンファランス陪席
- ④ 外科学：大学病院外科診療科での手術見学

特色ある授業形態

- ① 医療経済学、医療コミュニケーション学演習：英文原著輪読

② 医療経営学、医療管理学、医療マーケティング論、医療政策学、医療分析学、医療人事管理論、病院コミュニケーション論：ケーススタディ、グループワークディスカッション、ケースメソッドによる授業

演習においては、学生の希望と指導教員の専門性のかんがみて、研究を指導する演習の選択について1年次前期に学生と教員とのマッチングを行っている。演習指導にあたっては、教員は学生の希望するテーマに沿いつつ理論と実務の統合を念頭に置き、社会人が現場の実務を踏まえた研究・調査が行い成果物とすることができるよう配慮し、現場で問題を明確にして実現可能な対応策が提言できるような問題解決型の研究方法をとるなど、多様な工夫がなされた研究指導が行われている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（33-85 頁）
- ・別添資料 2-4 学生による授業評価アンケート報告【2011 年度】
- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報（3-28 頁）

（評価の視点 2－1 2）

多様なメディアを利用して遠隔授業を行っている場合は、これによって十分な教育効果が得られる専攻分野であって、当該効果が認められる授業を対象として実施しているものであるか。（「専門職」第 8 条第 2 項）

遠隔授業については実施していない。

（評価の視点 2－1 3）

通信教育によって授業を行っている場合は、これによって十分な教育効果が得られる専攻分野であって、当該効果が認められる授業を対象として実施しているものであるか。（「専門職」第 9 条）

通信教育については実施していない。

（評価の視点 2－1 4）

授業の内容、授業の方法及び施設・設備その他の教育上の諸条件を考慮して、授業のクラスサイズが、教育効果を十分に上げるために支障のないものとなっているか。（「専門職」第 7 条）

講義形式の必修科目では「総合研究棟」の「セミナー室」や「医療経営・管理学専攻」の「第一演習室」など比較的収容定員の多い教室を利用している。各科目の講義には約 2

0 人の学生が出席しているが、授業方法・教室の規模等からみて適当な人数の範囲内であり、十分な教育効果が上げられている。

また、ケースメソッドによる授業や外部講師を交えたディスカッション重視の授業、演習などの場合は、いずれも収容定員の少ない「医療経営・管理学専攻」の「第二演習室」や「第三演習室」、「教員室」等を利用し、プレゼンテーションやディスカッションのしやすい環境となるよう工夫を行っている。そうした環境のもと、クラスサイズはそれぞれ5人～10人程度となるよう設定し、それぞれ、適当な人数での授業を実施することで高い教育効果を上げている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 2-4 学生による授業評価アンケート報告【2011 年度】：登録者（2-3 頁）
- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画：講義場所（89-90 頁）

授業計画、シラバス

（評価の視点 2－15）

教育課程の編成の趣旨に沿って、毎回の授業の具体的な内容・方法、使用教材、履修要件及び一年間の授業日程等が明示されたシラバスが作成されているか。（「専門職」第 10 条第 1 項）

シラバスには、授業の概要、毎回の授業の具体的な内容や授業のすすめ方、教科書及び参考書、試験・成績評価の方法を記載するとともに、オフィスアワーや電子メール等による授業内容等に関する質問・相談についての対応方法を明示した標準化したものを用いている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（14-90 頁）

単位認定・成績評価

（評価の視点 2－16）

当該公衆衛生系専門職大学院固有の目的に応じた成績評価、単位認定の基準及び方法が策定され、それらが学生に対して、シラバス等を通じてあらかじめ明示されているか。（「専門職」第 10 条第 2 項）

成績評価基準は、「九州大学大学院通則」（表 2-16-A）及び医学系学府の教育目的に基づき「医療経営・管理学専攻成績評価規則」（表 2-16-B）に明確に定めている。

表 2-16- A 九州大学大学院通則(抜粋)

(成績) 第 2 1 条 各授業科目の成績は、A、B、C 及び D の 4 種の評語をもってあらわし、A、B 及び C を合格とし、D を不合格とする。 2 合格した授業科目については、所定の単位を与える。 3 不合格の授業科目については、再試験を受けさせることができる。 (専門職学位課程の修了要件) 第 5 6 条 専門職学位課程（法科大学院を除く。）の修了の要件は、専門職学位課程に 2 年以上在学し、専門職大学院（法科大学院を除く。）が定める 3 0 単位以上の修得その他の教育課程の履修により課程を修了することとする。
--

表 2-16- B 医療経営・管理学専攻成績評価規則（抜粋）

第 1 条 (成績の区分) 学生の成績は A、B、C、D の 4 段階とし、C 以上を合格とする。ただし、特別の理由があるときは合格・不合格の 2 段階評価とすることができる。 第 2 条 (成績区分の標準) A、B、C、D の基準は、下記の通りとする。 A 80 点以上、B 70 点以上、C 60 点以上、D 不合格 (60 点未満) 第 3 条 (成績評価) 成績は、筆記試験及び平常点によって評価する。ただし、実習科目並びに相当の理由がある場合は、レポート等の提出によって筆記試験に代えることができる。 2 各教員は、成績評価に際してどのような要素がどの程度考慮されるかにつき、学生が履修する前に公表しておくものとする。 3 教員による採点は、原則として素点によって行う。ただし、学生には素点ではなく、4 段階評価で通知する。
--

成績区分は、A、B、C、D の 4 段階であり、A、B、C を合格、D を不合格としている。成績は、筆記試験及び平常点によって評価することになっているが、実習科目並びに相当の理由がある場合は、レポート等の提出によって筆記試験に代えることができるとしている。必修科目群である「医療政策学」、「医療財政学」、「医療経営学」、「医療管理学」、「医療コミュニケーション学 I」では試験を行っている。成績評価、単位認定の基準及び方法はシラバスに明示するとともに、シラバスの配布やオリエンテーション等により学生に周知されている。なお、シラバスは本専攻のホームページにも掲載している。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 2-1 九州大学大学院医学系学府規則（6 頁）
- ・別添資料 2-3 九州大学大学院通則（6 頁）
- ・別添資料 2-5 医療経営・管理学専攻成績評価規則
- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（92 頁）
- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
授業計画 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_3.html

(評価の視点 2-17)

明示された基準及び方法に基づき、成績評価及び単位認定が、公正・厳格に行われているか。(「専門職」第10条第2項)

必修科目・選択科目については、各科目担当教員が評価した後、「講座教員会議」で検討し、その結果を「専攻運営会議」に報告している。演習については、専任教員全員による4段階評価を総合点として評価し、成果物発表会終了後「講座教員会議」で承認ののち「専攻運営会議」に報告している。評価結果は全員の平均点とともに学生に通知される。学生は、ウェブサイトで成績を確認することはできる。また、「医療経営・管理学専攻成績評価規則」により、本専攻の授業科目について受けた成績評価につき不服がある場合には、調査請求を行うことができる。このことはオリエンテーションで周知している。

成績評価及び単位認定の正確性の担保については、学生アンケート及び関係会議で措置を講じるとともに、「学務委員会」、「講座教員会議」、「専攻運営会議」で公正・厳格に行われているかを検討している。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画 (92 頁)
- ・別添資料別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：各委員会報告 (32-34 頁)、第 7 回運営会議議事録・第 10 回運営会議議事録 (42、45、46 頁)
- ・別添資料 1-4 九州大学学則
- ・別添資料 2-5 医療経営・管理学専攻成績評価規則
- ・九州大学ウェブサイト
教務情報 <http://www.kyushu-u.ac.jp/student/education/index.php>

他の大学院における授業科目の履修等

(評価の視点 2-18)

学生が他の大学院において履修した授業科目について、修得した単位や当該公衆衛生系専門職大学院に入学前に修得した単位を、当該公衆衛生系専門職大学院で修得した単位として認定している場合、教育上有益と認められ、かつ、その認定が法令上の基準の下に、当該公衆衛生系専門職大学院の教育水準及び教育課程としての一体性を損なわないよう十分に留意した方法で行われているか。(「専門職」第13条、第14条)

「九州大学大学院通則」第25条において、「各学府において、教育上有益と認めるときは、学生が本大学院の学府に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位を、本大学院の学府に入学した後本大学院の学府における授業科目について修得

したものとみなすことができる」としている。また、第 25 条第 2 項について、「修得したとみなすことのできる単位数は、10 単位を超えないものとする」と定めている。学生から申請があった場合は、大学院委員会で単位認定について審議することになっている。

【根拠・参照資料】

・別添資料 2-3 九州大学大学院通則（7 頁）

改善のための組織的な研修等

（評価の視点 2－19）

授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等を実施しているか。（「専門職」第 11 条）

本専攻における教育の内容及び方法を改善することを目的とした F D は、表 2-19 に示すように主に 3 種類である。1 番目は、当専攻の専任教員が講師となり、自分で工夫して行った医療経営・管理に関する講義を公開講座の形で外部に公開し、他の教員も同席して研修するものである。2 番目は、外部もしくは当講座の専任教員が講師となり、教育について研修するものである。3 番目が、教育教材の開発に関連して外部関連機関からの意見を聴取し、教育教材の参考とするものである。

これらの F D 活動については、「専攻運営会議」で報告し、年報にも記載しており、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等を実施している。

表 2-19 F D の形式、日程、タイトル、講師、参加者数

1. 公開講座の形式をとるもの			
日程	タイトル	講師	参加者数
平成 22/1/23	新政権下における医療政策の課題と展望	尾形 裕也	35 名
	高齢者医療の新たな構築に向けて	馬場園 明	
	患者参加の医療安全～現場のさまざまな取り組みから	鮎澤 純子	
平成 22/1/30	医療従事者のストレスマネジメント～ストレス度評価の多様性	荒木 登茂子	40 名
	福島県立大野病院事件と医事紛争への対応	萩原 明人	
	医療需給ミスマッチ、アクセス衡平性の多軸的分析の試み	桑原 一彰	
平成 23/1/22	医療提供体制改革の方向（政策選択	尾形 裕也	48 名

	肢の検討)		
	「ヒューマンエラーは裁けるか」を 考える～ヒューマンエラー、航空管 制官最高裁判決そして医療の現場	鮎澤 純子	
	医師の説明義務と過失責任	萩原 明人	
平成 23/2/5	医療情報活動と医療重要バランス定 量化可視化の精緻化	桑原 一彰	50 名
	医療従事者のストレスマネジメント	荒木 登茂子	
	米国の医療制度改革―クリントンと オバマ―	馬場園 明	
	自治体病院の経営改革―戦略経営の 重要性―	尾形 裕也	
平成 24/1/21	Evidence-based approach を目指し た医療経営管理の教育の試み	桑原 一彰	36 名
	「医療安全の次なる課題～そして安 全になったのだろうか～」	鮎澤 純子	
	居住系サービスの現状と課題	尾形 裕也	
平成 24/2/4	現場におけるストレスマネジメント	荒木 登茂子	42 名
	医師の患者に対する説明態様と過失 責任	萩原 明人	
	電子レセプトを用いた医療の評価	馬場園 明	
	地域中核公立病院の経営危機の要因 と再生策	齋藤 貴生	
2. 教育に関する講義			
日程	タイトル	講師	参加者 数
平成 22/12/16	高等教育機関及び公衆衛生大学院に おける認証評価	馬場園 明	6 名
平成 23/6/14	ナショナルデータベースの利用につ いて	岡本 悦司 (国立保健医 療科学院)	6 名
平成 23/12/13	自治体病院の経営について	齋藤 貴生 (田川市立病 院)	6 名

3. 教材の開発に関するもの			
日程	タイトル	参加団体	参加者数
平成 21/7/24	平成 21 年度専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム第 1 回推進検討委員会	岡山大学 福岡県 国保連合会 看護協会	8 名
平成 21/11/19	平成 21 年度専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム第 2 回推進検討委員会	岡山大学 福岡県 国保連合会 看護協会	8 名
平成 24/1/21	平成 23 年度教育の質向上支援プログラム第 1 回推進プログラム検討委員会	福岡県 看護協会 九大病院 熊本済生会病院	9 名
平 24/2/4	平成 23 年度教育の質向上支援プログラム第 2 回推進プログラム検討委員会	福岡県 看護協会 九大病院 熊本済生会病院	6 名

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-7 平成 21 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：大学改革推進等補助金、ファカルティ・デヴェロップメント（56-67 頁）
- ・別添資料 2-6 平成 22 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：ファカルティ・デヴェロップメント（33-34 頁）
- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：ファカルティ・デヴェロップメント、平成 23 年度教育の質向上支援プログラム（EEP）実績報告（35-38 頁）

（評価の視点 2－20）

学生からの意見聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等。）が実施されているか。また、その結果を教育の改善につなげる仕組みが整備され、適切に反映されているか。

学生による授業評価アンケートを全ての講義について毎学期実施している。授業評価ア

アンケートの結果は、各評価項目に関する相対評価と自由記載のコメントが各教員に報告されるとともに、「講座教員会議」及び「専攻運営会議」で報告される。その結果を踏まえて、講義内容や課題を変更した点を年俵に記載するなど改善を行っている。また、その改善点は、年報で「講義評価講義評価アンケートに基づいた講義内容の改善」に記載し、学生にもフィードバックを行なっている。

課程を修了した修了生及び就職先に対しても、3年おきに卒業生アンケートを実施している。調査目的は修了生や職場の立場から、教育内容を改善することである。調査方法は、ゼミ担任教官を通して自記式の調査票を配布し、記入済み調査票は事務局である講座秘書へ返送してもらっている。質問項目は、表 2-20-A に示し、修了生及び職場の上司別に回答を分けて集約し、「講座教員会議」及び「専攻運営会議」で報告している。修了生及び職場の上司ともに、現在の教育方法や講義や演習の内容には肯定的であった。しかし、現場での直接仕事に役に立つ教育のニーズが高いことから、表 2-20-B に示すように、卒業成果物においてはできるだけ現実の問題に対する解決能力を育むテーマが選択されるようになってきている。

表 2-20-A 卒業生アンケートの質問項目

○卒業生に対する質問項目
質問 1. 業務に必要な専門性という観点から見て、当専攻の教育カリキュラムどのように評価されますか？自由記述でお願いします。
質問 2. 業務に必要な専門性という観点から見て、当専攻の講義内容をどのように評価されますか？自由記述でお願いします。
質問 3. 業務に必要な専門性という観点から見て、当専攻のゼミや成果物指導をどのように評価されますか？自由記述でお願いします。
質問 4. 当専攻では、今後どのような点に重点をおいて教育すべきだとお考えですか？お考えがありましたら、自由にお答えください。
○職場の上司に対する質問項目
質問 1. 業務に必要な専門性という観点から見て、医療経営・管理学専攻の卒業生を採用するメリットがありますか？
質問 2. 新しい分野を開拓するための創造性という観点から見て、医療経営・管理学専攻の卒業生を採用するメリットがありますか？

質問 3. 新しい分野を開拓するための創造性という観点から見て、医療経営・管理学専攻の卒業生を採用するメリットがありますか？
質問 4. 当専攻では、どのような教育を期待されますか？お考えがありましたら自由にお答えください。

表 2-20-B 9 期生と 10 期生の卒業成果物テーマ

9 期生卒業成果物テーマ	10 期生卒業成果物テーマ
レセプトデータを活用した平均在院日数・再入院率の測定による医療費適正化計画への示唆	運動器リハビリテーションを受けた高齢者の自宅退院後 ADL 変化と関連要因に関する基礎的研究
電子レセプトを用いた急性脳卒中患者の診療プロセスの研究	A 病院における看護師の職務満足と勤務継続意思の関連性に関して
福岡県における虚血性心疾患の地域比較に関する研究	糖尿病入院患者の重症度が合併症、死亡リスク、入院日数及び医療費に及ぼす影響に関する定量的研究
福岡県の透析医療における地域格差の検証	認知症終末期における胃瘻造設についての考察～看取りに入る決断を支援するツールの作成～
心残りのある患者の死を経験した看護師の悲嘆反応と感情表出機会についての検討	福岡県小児救急電話相談の早期利用に関連する要因の検討
勤労者の精神的健康度とライフスタイル関連について～役職別による分析から～	新人看護師の早期離職にかかわる研究
院長のリーダーシップと病院運営	A 病院 ICU における看護の質の向上を目指して－2 年目看護師育成のためのケース教材作成－
厚生労働省電子的情報交換推進事(SS-MIX)パッケージを導入した電子情報取り扱いの運用	病院機能評価の現状、課題と今後の展望

腹腔鏡手術における材料費のばらつきに関する検証	DPC 調査データを活用した看護必要度調査の検証とそれを応用した病棟看護人員配置のための基礎的研究
A 大学病院における手術時間遅延の要因に関する分析	レセプトデータと診断群分類を活用した亜急性期必要病床数の定量化と移動シミュレーションによる必要病床数とアクセスの変化の推計に関する研究
ケースメソッド教育で使用する医療安全ケース教材の作成	小児外来看護に携わる看護師の子どもの権利に対する認識と、子どもへの説明状況に関する研究ー採血場面における分析ー
有限会社A薬局の業務改善 ー在庫管理における事例報告と考察ー	診断群分類調査データと電子カルテデータを使用したプロセス・アウトカムの分析とそれを活用した患者状態適応型パスの精緻化の試み
コメディカルのための心臓電気生理学的検査の教材作成	職域における大腸がん検診精密検査の受診行動に関連する要因の検討
A大学病院における説明同意文書の改善～定型文の改訂・説明同意文書の改善点の検討・テンプレートの作成～	北九州市がん意識調査を用いたがん受診率の推計
E・F ファイルを活用した診療活動量の測定とそれを活用した病院原価計算精緻化の研究	「介護老人保健施設の医療介護安全管理」～離院インシデント事例を用いた RCA 実習教材の作成～
病院管理データを用いた医療資源とアウトカムの観点からみた併存症の重み付けに関する比較研究	介護の質に関する研究 ～摂食嚥下機能の低下した高齢者への食事介助方法の標準化～
K 病院整形外科退院者の外来受診行動のばらつきに影響を与える要因分析	医薬品 SPD の新たなビジネスモデル及び事例研究
日本におけるナースプラクティショナー導入の可能性～養成課程のあり方を中心とした考察～	がんにおける最適な集約化のための診療圏域作成の試み

高齢者医療制度設計に関する教材作成	複合体組織を経営する医療法人が開設する有料老人ホームのコンセプトと戦略
	CT 装置トラブルに関する多施設間での事例収集・共有とその活用について
	大規模災害時の医薬品供給に関する一考察

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 2-4 学生による授業評価アンケート報告【2011 年度】
- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：講義評価アンケートに基づいた講義内容の改善、院生の成果物の抄録(3-28 頁)
- ・別添資料 2-6 平成 22 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：講義評価アンケートに基づいた講義内容の改善、院生の成果物の抄録(3-26 頁)、卒業生アンケート調査結果(36-45 頁)

(評価の視点 2-21)

学生の状況や各教員の教育内容及び指導方法等について、教員間で情報が共有され、それが更なる改善に結びついているか。

専攻の学生の教育に最も深く関係している、2-21-A で示されている医療経営・管理学講座の教員からなる「講座教員会議」が毎週水曜日に開かれており、学生教育に関する事項等を幅広く検討し情報の共有を図っている。また、月 1 回開催される、2-21-B で示される構成員からなる「専攻運営会議」で専攻全体の教育に関することを検討している。「専攻運営会議」の案内と議事録は教育に関係する「専攻運営会議」の全メンバーに通知されている。これらを通じて、講義内容や課題の変更、演習のマッチング、演習におけるケースメソッドの採用、個別の学生の学業サポート、留学生に対する生活支援や教育指導等も図られている。表 2-21-C に必修科目の講義に対する改善例を示した。

表 2-21-A 医療経営・管理学講座の「講座教員会議」のメンバー

馬場園 明、荒木 登茂子、尾形 裕也、萩原 明人、鮎澤 純子、桑原 一彰

表 2-21-B 「専攻運営会議」のメンバー

所属・職名・指導教員氏名	氏名
九州大学医学研究院・教授	馬場園 明
九州大学医学研究院・教授	尾形 裕也
九州大学医学研究院・教授	荒木 登茂子
九州大学医学研究院・教授	萩原 明人
九州大学医学研究院・准教授	鮎澤 純子
九州大学医学研究院・准教授	桑原 一彰
九州大学医学研究院・教授	住本 英樹
九州大学医学研究院・教授	赤司 浩一
九州大学医学研究院・教授	須藤 信行
九州大学医学研究院・教授	古野 純典
九州大学医学研究院・教授	池田 典昭
九州大学医学研究院・講師	工藤 恵子
九州大学医学研究院・助教	辻 彰子
九州大学医学研究院・教授	前原 喜彦
九州大学医学研究院・教授	清原 裕
九州大学医学研究院・講師	田中 昭代
九州大学医学研究院・助教	平田 美由紀
九州大学医学研究院・教授	吉田 素文
九州大学医学研究院・助教	菊川 誠
九州大学病院・准教授	中島 直樹
九州大学薬学研究院・教授	家入 一郎
九州大学薬学研究院・准教授	窪田 敏夫
九州大学法学研究院・教授	五十川 直行
地域健康文化学研究所・研究所長	荒木 正見
公立大学法人福岡女子大学・教授	吉村 健清
産業医科大学公衆衛生学教室・講師	久保 達彦
保健医療経営大学・教授	堺 孝明
熊本学園大学商学部・准教授	池上 恭子

表 2-21-C 必修科目の講義に対する改善例

必修科目名	改善内容
医療政策学	医療政策学では学生から分析的なことよりも基礎的なことを教えて欲しいとの要望があった。そこで、入門編で診療報酬、介護報酬も含めた基礎的な内容を紹介し、応用編では米国、英国、ドイツ、フランスの医療制度についても講義を行った。
医療財政学	医療財政学では、1 年次前期の必修基礎科目であることにかんがみ、オリエンテーションにおいて参考文献について丁寧に説明するとともに、最初の 3 回を医療財政入門として、導入的な講義を行った。また、諸外国の制度について説明の要望があったので、医療財政に関する諸モデルに関し、OECD の資料をテキストとして、基本的な医療財政方式について説明を行った。
医療経営学	医療経営学では、複合体の経営事例についての関心が示されたので、ピュアサポートグループ小山代表を招聘して、1 コマ講義をしていただいた（老人保健施設の位置付けの見直し等、革新的な複合体経営のあり方についての講義は大変好評であった）。
医療管理学	医療管理学では、担当科目が範囲とする領域をカバーする教科書的なものがないため、本年度も、「医療経営・管理者養成テキスト」の一部を「教科書的な一冊」とするとともに、今日的な課題に関する教材については「教員が作成する資料」を教材として活用した。また新たな取り組みとしてケースメソッドを用いた授業方法を導入した。ディスカッションテーマに関する参加型の講義となったというだけでなく、学生アンケートでは方法論そのものを知ることが役に立つという声も多く、次年度以降も継続していく予定である。
医療コミュニケーション学 I	（荒木担当分）ケーススタディを提示しながら医療現場での実際のコミュニケーションについての講義を行ったことは功を奏し、学生の興味を引いた。理論的な根拠や文献を明示することに関しては、次年度に向けて改善を続ける。 （萩原担当分） 医療コミュニケーション学 I では、医療の場におけるコミュニケーションの特徴や阻害要因やコミュニケーション技法等の基礎的な項目については、講義形式の授業を行い、医事紛争と医療の質の関係については、最近の代表的な研究論文を取り上げ、グループ単位で討論しながら授業を進めた。今までの経験から、講師による一方向の講義は学生の関心や興味を引きにくく、逆に、ケース（事例）を用いた授業には学生が積極的に参加することが分かってきた。そこで、今回は、医事紛争と謝罪に

	関する事例を取り上げ、グループ単位での課題発表や討論形式の授業を心がけた。また、平成21年度の経験を踏まえ、初学者でも理解できるテーマを取り上げるようにした。しかし、依然、受講生の中で消化不良を起こした者がいた。分かりやすく伝えることが今後の課題である。
--	---

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-2 平成24年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（10-12 頁）
- ・別添資料 1-6 平成23年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：講義評価アンケートに基づいた講義内容の改善（3-7 頁）、各委員会報告、（32-34、39-46 頁）

特色ある取組み

（評価の視点2-2-2）

教育方法に関して、特色として強調すべき点、ないし検討課題はあるか。

必修科目である「医療政策学」、「医療財政学」、「医療経営学」、「医療管理学」、「医療コミュニケーション学Ⅰ」、「演習Ⅰ,Ⅱ」の授業を火曜日に集中させるとともに、「演習」は夜間及び学生の勤務の都合に応じた個別指導を行うなど、社会人学生が授業と仕事を両立できるように配慮した。また社会人学生への配慮として、2年間の授業料で3年間在学して履修できる3年履修制度も実施している。

表 2-22 3年履修制度の利用者

平成21年度			平成22年度			平成23年度		
男	女	計	男	女	計	男	女	計
1名	0名	1名	3名	4名	7名	2名	4名	6名

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-2 平成24年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画：平成24年度授業時間割（89-90 頁）
- ・別添資料 1-1 平成25年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程（専門職大学院）学生募集要項（9 頁）

〔点検・評価（長所と問題点）〕

必修科目及び選択科目においては、病院・診療科・手術の見学やSPD (Supply Processing & Distribution; 院内物流)の倉庫見学・裁判所見学など、現場に出向いての教育の機会を積極的に設けている。また、教員は各担当科目のなかで必要に応じて医療経営管理の領域

で特色ある成果を挙げている病院の経営者・管理者など、現場における第一線の実務者や専門家を招き、講義のみならず討論・質疑の機会を設け、実践教育の充実を図っている。また、教育方法については、教材としてケースを活用したケーススタディを行ったり、講義形式については、グループワークディスカッションやケースメソッドなどを活用したりするなど、科目によって適切な方法で行っている。

本専攻における教育の内容や方法を改善することを目的としたFDは、自分で工夫して行った医療経営・管理に関する講義を公開講座の形で外部に公開し、他の教員も同席して研修するもの、外部もしくは当講座の専任教員が講師となり、教育について研修するもの、教育教材の開発に関連して外部関連機関からの意見を聴取し、教育教材の参考とするものがあり、組織的な研修等を実施している。

学生との意見交換や授業評価アンケート及び修了生及び就職先からのアンケート結果も日々の教育方法の改善に活用している。引き続きこれらの取り組みを通じた教育方法に関する継続的な改善を図っていく。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画 (33-85 頁)
- ・別添資料 1-7 平成 21 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：大学改革推進等補助金、ファカルティ・デヴェロップメント (56-67 頁)
- ・別添資料 2-6 平成 22 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：卒業生アンケート調査結果 (36-45 頁)、ファカルティ・デヴェロップメント (33-34 頁)
- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：講義評価アンケートに基づいた講義内容の改善 (3-7 頁)、院生の成果物の抄録 (8-28 頁)、ファカルティ・デヴェロップメント、平成 23 年度教育の質向上支援プログラム (EEP) 実績報告 (35-38 頁)、

【将来への取り組み・まとめ】

本専攻は、現在の医療を改善したいという熱意をもった多くの社会人が入学しており、医療政策、経営、管理、コミュニケーションをコアとして、広域にわたり知識を習得する機会が与えられていると学生や修了生から評価されている。修了生は医療関係の就職先でも即戦力として期待できると評価されており、医療を通じて地域社会に貢献している。これらの取組により、本専攻の教育目的は実現されているが、今後も引き続き、医療問題を解決するために、目的を明確にし、具体的に対策を組み立て、結果を評価し、改善するシステムを構築できる人材を育成することを目指し、教育の改善・向上を図っていく。

(3) 成果等

[現状の説明]

学位の名称

(評価の視点 2－2 3)

授与する学位は、公衆衛生系の実務分野の要請に応えうるような適切な水準のものであるとともに、教育内容に合致する適切な名称を有するものであるか。(「学位規則」第 5 条の 2、第 10 条)

本専攻の修了者には、「医療経営・管理学修士（専門職）」（英語名： Master of Public Health (MPH)）が授与される。本専攻では、公共性や職業倫理を重視しているため、専攻名を医療経営・管理学としているが、内容的には海外の公衆衛生大学院に相当する。

「2－（1）教育課程等」において既述のとおり、本専攻の教育カリキュラムは、公衆衛生領域における高度専門職業人を養成すべく、公衆衛生系の共通の基盤となる、「疫学」、「医療統計学」、「環境科学」、「保健医療管理学」、「社会及び行動科学（医療倫理学含む）」に関する内容を基本に、幅広い科目を適切に学べる教育課程が編成され、保健医療分野における高度な分析能力、体系的な保健医療制度の理解、そして人々の健康に貢献するという強い意志と高い倫理観を備えるものとなっている。加えて、公衆衛生に関する大学院教育のグローバルスタンダードにも対応している。そして、医療経営・管理に関する専門職業人を養成するという目的を踏まえ、教育内容は、「医療政策学」、「医療経営学」、「医療管理学」、「医療コミュニケーション学」といった医療経営・管理に必要な幅広い分野を適切にカバーするものになっている。さらに、統合・調整・組織化できる高度な専門職業人を養成するために、問題解決能力を涵養することを念頭においた演習も行っている。これらのことから、本専攻が授与する学位は、公衆衛生系の実務分野の要請に応えうる適切な水準にあるとともに、教育内容に合致する適切な名称を有している。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-1 平成 25 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程（専門職大学院）学生募集要項：入学案内（7-9 頁）
- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（1-4 頁）
- ・別添資料 1-3 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程 パンフレット
- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
授業計画 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_3.html

学位授与の基準

(評価の視点 2-24)

学位授与に関する基準及び審査手続等が明文化され、それに基づいて学位授与が適切に行われているか。(「専門職」第10条第2項)

専門職学位は、「九州大学大学院通則」第56条及び「九州大学大学院医学系学府通則」第16条の規定に基づき、本学大学院の課程を修了した者に授与される。当専攻では、専門分化した医療技術を、人々が「安心・納得・一体感」を持って生活し、人生を過ごせるよう統合・調整組織化できる高度な専門職業人を育成することを目的として、疫学・生物統計学等を基盤に、医療政策・医療経営・医療管理の分野に本専攻の特色として医療コミュニケーションの分野を加えて構成し、医療・保健に関する幅広い問題について総合的な教育研究を行うとしている。そのため、非医系学生は、「医療学基礎科目群」を4単位、「共通基礎科目群」6単位、「必修専門科目群」12単位、「選択専門科目群」の履修を含めて2年間で30単位以上の履修を修了要件としている。また、医系学生は、「共通基礎科目群」6単位、「必修専門科目群」12単位、「選択専門科目群」の履修を含めて2年間で30単位以上の履修を修了要件としている。医系学生、非医系学生ともに、2年以上在学し、指定の授業科目から30単位以上を修得し、その他当専門職大学院の定める教育課程を修了することとしている。なお、演習の単位認定に最終成果物の作成があり、最終成果物を完成させることが学位授与の要件となっている。なお、本専攻の課程の修了要件は、「2-(1) 教育課程等」(本専攻における成績評価の正確さを担保するための取り組みは表2-24のとおり)に既述のとおりであり、当該修了要件は、学生募集要項やシラバス等に明記している。また、入学時のオリエンテーションを通じて学生に周知している。

表 2-24 本専攻における成績評価の正確さを担保するための取り組み

教務委員会においては、平成19年度カリキュラム改正について検討を行い、その改正案を作成した(運営会議の議を経て、教授会にて承認済み)。その主たる内容は、①教員人事異動に伴う担当科目、開講科目の一部見直し、②(文部科学省・専門職大学院形成支援事業の結果等を踏まえた)休日・夜間講義の継続実施、③必修専門科目における成績評価の統一(講義50%、期末試験50%)とシラバスにおける明示等である。また、18年度において、演習の実施方法について、2回の審査会の位置付けを明確化するとともに、最終成果物の評価の方法について6人の専任教員全員による4段階(ABCD)評価を実施し、その結果を学生に対して通知することとした。今後とも、科学的かつ実践的な教育内容となるよう、カリキュラム等については不断の見直しを行っていきたい。(平成19年度年報)

学位授与に関わる審査は、修了要件に即して、「教務委員会」、「専攻運営会議」、「学府教授会」において承認を得るという手続きにより、厳格かつ公正に行われている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 2-3 九州大学大学院通則（6 頁）
- ・別添資料 2-1 九州大学大学院医学系学府通則（6 頁）
- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画：修了要件（3 頁）
- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：第 11 回運営会議（46 頁）

修了者の進路の把握

（評価の視点 2－25）

修了生の進路について把握し、適切に公表されているか。

修了生の進路については、修了時に学生に対して医療経営管理学講座が電子メールや電話による調査を行っており、およそ 10 割を把握している。調査で得た情報は、個人情報に配慮し、入試説明会、本専攻のウェブサイト及びパンフレットにおいて、課程・業種ごとに概数を公表している。平成 21 年度から平成 23 年度までの集計では、医療機関等へ就職する者が約 9 割を占めていた。

表 3-25-A 修了後の進路状況

	平成 21 年度			平成 22 年度			平成 23 年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
大学院	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
就 職	11 名	9 名	20 名	8 名	10 名	18 名	6 名	9 名	15 名
その他	0 名	0 名	0 名	1 名	2 名	3 名	0 名	0 名	0 名
計	11 名	9 名	20 名	9 名	12 名	21 名	6 名	9 名	15 名

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-3 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程 パンフレット
- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
成果物・卒業後の進路・就職
http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_10.html

教育効果の測定

（評価の視点 2－26）

修了後の進路の状況等の実績や成果を踏まえ、当該公衆衛生系専門職大学院固有の目的に沿った教育効果を測る仕組みを整え、適用しているか。

教育の成果や効果に関する意見などを3年ごとに修了生や就職先を対象に卒業生アンケートを行っている。これらは、表2-20-Aに示すように、当専攻の教育カリキュラム、講義内容、ゼミや成果物指導、今後どのような点に重点をおいて教育すべきかについて、コメントを受けつけるものである。平成16年度、19年度、22年度に実施し、これらの結果は「専攻運営会議」で報告されるとともに年報にも掲載した。これらの意見聴取の内容や専門職域に係わる社会のニーズに関する情報などは、個々の教員ならびに「講座教員会議」や「専攻運営会議」にフィードバックし、点検・評価に反映させている。また、修了生による、訪問、面接等を随時受け付けており、意見を聴取している。これらの結果は、表2-20-Bに示されるように、現場にフィードバックできる卒業成果物の形で還元されている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料2-6 平成22年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：卒業生アンケート調査結果（36-45頁）
- ・別添資料1-6 平成23年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：第3回運営会議議事録（40頁）

特色ある取組み

（評価の視点2-27）

教育成果、又は、教育成果を踏まえた教育の内容・方法等に関して、特色として強調すべき点、ないし検討課題はあるか。

学生が在学中にまとめた卒業成果物の中で新たに得られた知見を、次年度以降の講義の中で積極的に取り上げ、学生にフィードバックしている。例えば、医療オーガナイズ論では高齢者のマーケティングに関する知見を紹介し、医療コミュニケーション学Ⅰではサークルドローイング法による看護師のメンタルストレス評価及び形容詞や副詞による程度表現（例、「多い」「少ない」「長い」「短い」）の医療者と非医療者による理解の違いに関する知見を紹介している。これらは教育内容や方法に関する特色ある取り組みである。

九州大学では専門職大学院間で相互履修制度が設けられており、計11科目が提供されており、毎年新入生オリエンテーション時には、相互履修について設定の経緯をはじめ科目と履修方法について資料を配布し説明する機会を設けている。

また、修了生に対するアンケート調査結果では、調査項目全般にわたって高い評価を得ている。加えて、8割を超える回答者が「本専門職大学院での知識は幅広く、有用だったことに加え、様々なキャリア・バックグラウンドのメンバーと一緒に学ぶことが有意義だった」ことを挙げている。これらの結果から、本専攻の目的に照らして教育成果があがっていると言える。

【根拠・参照資料】

・別添資料 2-6 平成 22 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：卒業生アンケート調査結果（36-45 頁）

【点検・評価(長所と問題点)】

医療経営・管理学専攻の修了者には、「医療経営・管理学修士（専門職）」が授与される。これは、本専攻の教育カリキュラムが、公衆衛生領域における高度専門職業人を養成すべく、保健医療分野における高度な分析能力、体系的な保健医療制度の理解、そして人々の健康に貢献するという強い意志と高い倫理観を備えるものとなっており、公衆衛生に関する大学院教育のグローバルスタンダードにも対応していることから、本専攻の教育内容に合致する適切な名称であると考えられる。これらは、「学位規則」第 5 条の 2 及び第 10 条を満たしている。

また、上記の学位の授与に関わる基準及び審査手続き等は、「九州大学大学院通則」、「九州大学大学院医学系学府通則」、学生募集要項及びシラバス等に明記するとともに、入学時のガイダンス及び本専攻独自のオリエンテーションを通じて学生に周知している。また、学位授与に関わる審査は、医学系学府の規則に定められた手続きにより、厳格かつ公正に行われている。以上から、本専攻の学位授与等については、「専門職大学院設置基準」第 10 条第 2 項を満たしている。

修了生の進路については、約 9 割以上が想定された分野（医療機関、行政、NPO、シンクタンク、企業、大学、研究所）に就職していることから、公衆衛生に関わる広範な領域において活躍し得る高度専門職業人を輩出している点が評価できる。また、修了生に対する卒業生アンケート調査結果では、公衆衛生分野における高度専門職業人として求められる知識、技術、能力、協調性などの項目で高い評価を得ており、本専攻が十分な教育成果をあげていることの証左と思われる。

【根拠・参照資料】

・別添資料 2-3 九州大学大学院通則（6 頁）

・別添資料 2-1 九州大学大学院医学系学府通則（6 頁）

・別添資料 1-3 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程 パンフレット

・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
成果物・卒業後の進路・就職

http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_10.html

・別添資料 2-6 平成 22 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：卒業生アンケート調査結果（36-45 頁）

[将来への取組み・まとめ]

引き続き、本専門職大学院で身に付いた知識・技能・能力などの教育効果を測る試みを継続するとともに、修了生の進路を確実に把握してゆく。また、本専攻修了生及び在学生によって組織される九州大学医療経営管理学専攻同窓会と連携し、修了生に対して本専攻に関わる情報提供を行うとともに、修了生のキャリアパスについての情報を収集する。

3 教員組織

[現状の説明]

専任教員数

(評価の視点 3-1)

専任教員数に関して、法令上の基準を遵守しているか。(「告示第 53 号」第 1 条第 1 項)

医療経営・管理学専攻の専任教員は、医学研究院基礎医学部門の医療経営・管理学講座の教員 6 名、医学研究院基礎医学部門の社会環境医学講座 7 名、医学研究院臨床医学部門の内科学講座 1 名、医学研究院臨床医学部門の外科学講座 1 名、医学研究院医学教育部門の医学教育講座 1 名、九州大学病院中央診療施設のメディカル・インフォメーションセンター 1 名及び薬学研究院の教員 2 名の合計 19 名が務めており、基準の 15 名を上回っている。また、実務家専任教員は医療経営・管理学講座の 6 名と薬学研究院の 2 名の合計 8 名であり、必要とされる専任教員の 1/3 を上回っている。

表 3-1-A 設置基準で必要とされる専任教員の数等及び現員数(平成 24 年 3 月 31 日現在)

	必要数等	現員
専任教員	15 名	19 名
実務家専任教員	5 名	8 名

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画 (10-12 頁)
- ・別添基礎データ 表 2 教員組織

(評価の視点 3-2)

専任教員が、1 専攻に限り「専任教員」として取り扱われているか。(「告示第 53 号」第 1 条第 5 項。なお、平成 25 年度まで、「専門職」附則 2 が適用される。)

平成 25 年 3 月時点の専任教員数は 19 名(教授 10、准教授 4、講師 2、助教 3)であり、設置基準で必要とされる専任教員数 15 名を満たしている。なお、19 名のうち教授 3 名、准教授 1 名が博士課程とダブルカウントされている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画 (10-12 頁)
- ・別添基礎データ 表 2 教員組織

(評価の視点 3-3)

法令上必要とされる専任教員数の半数以上が、原則として教授で構成されているか。

(「告示第 53 号」第 1 条第 6 項)

19 名の専任教員のうち 10 名が教授であり、専任教員数の半数以上が、教授で構成されている。

【根拠・参照資料】

・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画 (10-12 頁)

・別添基礎データ 表 2 教員組織

専任教員としての能力

(評価の視点 3-4)

専任教員は、以下のいずれかに該当し、かつ、その担当する専門分野に関し高度の教育上の指導能力を備えている者であるか。

1. 専攻分野について、教育上又は研究上の業績を有する者

2. 専攻分野について、高度の技術・技能を有する者

3. 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有する者（「専門職」第 5 条）

本専攻の担当教員の構成は、教員一人当たりの学生数からみて、教育課程を遂行するために必要な教員が以下のように確保されている。

1. 専攻分野について、教育上又は研究上の業績を有する者としては、表 3-4-A のように医学研究院基礎医学部門の社会環境医学講座 7 名、医学研究院臨床医学部門の内科学講座 1 名、医学研究院臨床医学部門の外科学講座 1 名、医学研究院医学教育部門の医学教育講座 1 名、九州大学病院中央診療施設のメディカル・インフォメーションセンター 1 名の 11 名が該当している。これらの教員については、当研究院の選考委員会で基準に準じて審査を行なっている。

表 3-4-A 教育上又は研究上の業績を有する者

教育上又は研究上の業績を有する者	所属	学位
古野 純典 教授	医学研究院基礎医学部門 社会環境医学講座	医学博士
池田 典昭 教授	医学研究院基礎医学部門 社会環境医学講座	医学博士

清原 裕 教授	医学研究院基礎医学部門 社会環境医学講座	医学博士
工藤 恵子 講師	医学研究院基礎医学部門 社会環境医学講座	医学博士
田中 昭代 講師	医学研究院基礎医学部門 社会環境医学講座	医学博士
辻 彰子 助教	医学研究院基礎医学部門 社会環境医学講座	医学博士
平田 美由紀 助教	医学研究院基礎医学部門 社会環境医学講座	医学博士
須藤 信行 教授	医学研究院臨床医学部門 内科学講座	医学博士
前原 喜彦 教授	医学研究院臨床医学部門 外科学講座	医学博士
菊川 誠 助教	医学研究院臨床医学教育部門 医学教育学講座	医学教育学修士
中島 直樹 准教授	九州大学病院中央診療施設 メディカル・インフォメーションセ ンター	医学博士

2. 専攻分野について、高度の技術・技能を有する者の条件は、医療の専門職種として技術・技能を要する業務に5年以上従事した者としており、表3-4-Bに示すように医療経営・管理学講座の専任教員3名（馬場園教授、荒木教授、桑原教授）及び薬学研究院の2名（家入教授、窪田准教授）が該当する。

表3-4-B 教育上又は研究上の業績を有する者

高度の技術・技能を有する者	所属	実務経験・職種
馬場園 明 教授	医学研究院基礎医学部門 医療経営・管理学講座	健康管理業務・ 内科医（医学博 士）
荒木登茂子 教授	医学研究院基礎医学部門 医療経営・管理学講座	病院カウンセラ ー・臨床心理士 （文学修士）

桑原 一彰 准教授	医学研究院基礎医学部門 医療経営・管理学講座	病院管理業務・ 外科医 (社会健康医学 博士)
家入 一郎 教授	薬学研究院 臨床薬学部門 臨床薬 学講座	臨床薬学教育・ 薬剤師 (薬学博士)
窪田 敏夫 准教授	薬学研究院 臨床薬学部門 臨床薬 学講座	臨床薬学教育・ 薬剤師 (薬学博士)

3. 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有する者の条件は、医療経営・管理の専門知識を要する業務に5年以上従事した者としており、表3-4-Cに示すように医療経営・管理学講座の専任教員3名（尾形教授、萩原教授、鮎澤准教授）が該当する。

表 3-4-C 教育上又は研究上の業績を有する者

特に優れた知識及び経験を有する者	所属	実務経験・職種 (学位)
尾形 裕也 教授	医学研究院基礎医学部門 医療経営・管理学講座	厚生労働省事務・事務職 (工学士・経済 学士)
萩原 明人 教授	医学研究院基礎医学部門 医療経営・管理学講座	企業法務業務 (法学士・医学 博士)
鮎澤 純子 准教授	医療安全教育業務（薬剤師）	医療安全教育業務・薬剤師（薬 学士）

実務家教員の割合

（評価の視点3－5）

専任教員のうち「実務家教員」について、5年以上の実務経験を有し、かつ、高度の実務能力を有する教員が、当該分野で必要とされる一定の割合で構成されているか。（「告示第53号」第2条）

実務家教員は8名であり、平成15年文部科学省告示第53号第2条の「おおむね3割以上」を満たしている。当専攻の実務家教員は表3-5-Aに示されるように、医療の専門職種として技術・技能を要する業務、あるいは、医療の専門知識を要する業務に5年以上従事した者を条件としており、当専攻の実務家教員8名はこの条件を満たしている。

表 3-5-A 実務教員と実務経験（職種）及び実務を行った機関

実務教員	実務経験(職種)	実務を行った機関
馬場園 明 教授	健康管理業務（内科医）	九州大学健康科学センター
荒木 登茂子 教授	病院カウンセラー（臨床心理士）	九州大学病院
尾形 裕也 教授	厚生労働省事務官（事務職）	厚生労働省事務官
萩原 明人 教授	企業法務業務（法学士）	企業法務業務（関西電力）
鮎澤 純子 准教授	医療安全教育業務（薬剤師）	東京海上メディカルサービス株式会社
桑原 一彰 准教授	病院管理業務（外科医）	沖縄県立病院
家入 一郎 教授	臨床薬学教育（薬剤師）	九州大学病院
窪田 敏夫 准教授	臨床薬学教育（薬剤師）	九州大学病院

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（10-12 頁）
- ・別添基礎データ 表 3 専任教員個別表

専任教員の分野構成、科目配置

（評価の視点 3－6）

当該公衆衛生系専門職大学院において教育上主要と認められる授業科目について、原則として、専任の教授又は准教授が担当者又は科目の責任者として配置されているか。

専攻として主要と認められる必修科目（医療政策学、医療財政学、医療経営学、医療管理学、医療コミュニケーション学Ⅰ及び演習）は、表 3-6-A に示されるように、専任の教授及び准教授で対応している。また、共通基礎科目群である医療保障法、医学統計学、医療情報学、社会医学、医療行政学も専任の教授及び准教授で対応している。共通基礎科目群である疫学に関しては、卓越した教育実績をもつ福岡女子大学の吉村健清教授が担当している。また、医療オーガナイズ論、医療分析学Ⅰ、医療分析学Ⅱでは、疫学、医学統計学についても教育を行っているが、これらの科目は専任の教授及び准教授で対応している。

表 3-6-A 主要な科目と担当教員

科目の種別	科目	担当教員
必修専門科目	医療政策学	馬場園 明 教授（専任）
必修専門科目	医療財政学	尾形 裕也 教授（専任）
必修専門科目	医療経営学	尾形 裕也 教授（専任）
必修専門科目	医療管理学	鮎澤 純子 准教授（専任）
必修専門科目	医療コミュニケーション学Ⅰ	荒木 登茂子 教授（専任） 萩原 明人 教授（専任）
必修専門科目	演習Ⅰ,Ⅱ	馬場園 明 教授（専任） 荒木 登茂子 教授（専任） 尾形 裕也 教授（専任） 萩原 明人 教授（専任） 鮎澤 純子 准教授（専任） 桑原 一彰 准教授（専任）
共通基礎科目	医療保障法	桑原 一彰 准教授（専任）
共通基礎科目	疫学	吉村 健清 教授（非常勤） 久保 達彦 講師（非常勤）
共通基礎科目	医学統計学	古野 純典 教授（専任）
共通基礎科目	医療情報学	中島 直樹 准教授（専任）
共通基礎科目	社会医学	池田 典昭 教授（専任） 工藤 恵子 講師（専任） 辻 彰子 助教（専任）
共通基礎科目	医療行政学	萩原 明人 教授（専任）
選択専門科目	医療オーガナイズ論	馬場園 明 教授（専任）
選択専門科目	医療分析学Ⅰ	桑原 一彰 准教授（専任）
選択専門科目	医療分析学Ⅱ	桑原 一彰 准教授（専任）

【根拠・参照資料】

・別添基礎データ 表3 専任教員個別表

教員の構成

（評価の視点3－7）

教員の構成が、特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないように配慮されたものとなっているか。（「大学院」第8条第5項）

教員は30歳台1名、40歳代2名、50歳台12名、60歳代4名で、39歳から64歳まで分

布しており、年齢に関しても配慮している。。

【根拠・参照資料】

- ・別添基礎データ 表 3 2 専任教員個別表

教員の募集・任用

(評価の視点 3－8)

教員の募集・任用の手続について、規程が定められ、適切に運用されているか。

「九州大学大学院医学研究院医療経営・管理学講座教授候補者選考内規」が定められ、「選考委員会」で候補を選出し、「医学研究院教授会」で選考している。

表 3-8-A 本専攻における資格審査基準等の現況と教育研究上の指導能力に関する評価の実施状況

基本的な観点に沿った取り組み	根拠資料・データ
教員の採用基準は、各選考内規により公募制で競争的に審査され、自動的には昇格できないシステム。	○教授候補者選考内規 ○准教授及び講師候補者選考内規
選考にあたっては、業績や研究費採択の他、「教育、研究及び社会的貢献に対する取り組みと展望」の論文を提出させ、教員としての資質、使命感等も検討。	○教授候補者公募要領

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 3-1 九州大学大学院医学研究院医療経営・管理学講座教授候補者選考内規
- ・別添資料 3-2 九州大学大学院医学研究院医療経営・管理学講座准教授及び講師候補者選考内規
- ・別添資料 3-3 医療経営・管理学講座准教授・講師候補者選考基準についての申し合わせ事項
- ・別添資料 3-4 九州大学大学院医学研究院医療経営・管理学講座教授候補者公募要領

教員の教育研究条件

(評価の視点 3－9)

当該公衆衛生系専門職大学院固有の目的に応じて教員組織の活動をより活性化するための適切な措置（例えば、教育活動及び研究活動に配慮した授業担当時間、研究費、研究専念期間制度（サバティカル・リープ）、任期制、テニユア制度等の導入等。）により、教員の教育活動及び研究活動に必要な機会が保証されているか。

専任教員の年間の講義の担当は4科目と演習を限度とし、各教員に対する研究費（大学運営経費の配分）は適切に配分されており、教員の教育活動及び研究活動に必要な機会が保証されている。また、教育の主体となっている医療経営・管理学講座の教員は研究のための外部資金を獲得している。教育研究活動の活性化を図ることを目的として任期制（5年間）を導入している。サバティカル制度、年齢及び性別のバランスへの配慮、外国人教員の確保等については、本専攻の専任教員数等から独自の内規等の制定は現実的ではなく、九州大学において定められている、サバティカル要項、男女共同参画推進を尊重している。しかしながら、当専攻の教員でサバティカル制度を利用した実績はない。

表 3-9-A 九州大学サバティカル実施要項(抜粋)

九州大学サバティカル実施要項 [平成 17 年 4 月 1 日実施] から抜粋	
1 趣旨	この要項は、国立大学法人九州大学教員人事規則の規定に基づく長期にわたる研修の一環として実施するサバティカルについて必要な事項を定めるものとする。
2 定義	この要項において「サバティカル」とは、教員の専門分野に関する教育研究の更なる向上と飛躍を図るため、教員が行う教育、大学運営等の通常業務を一定期間免除し、当該教員が自主的調査研究を行うことをいう。
3 期間	(1) サバティカルの期間は、6 月以上 1 年以内の継続した期間とする。
4 要件	(1) サバティカルを取得することができる者は、九州大学の教授、准教授、講師又は助教としての在職期間が継続して 7 年を超える者とする。
5 選考	(1) サバティカルの取得者の選考は、実施年度の前年度末までに、各教授会等の定める基準に基づき当該教授会等で行う。

表 3-9-B 九州大学における男女共同参画 平成 22 年 4 月 1 日（抜粋）

http://danjyo.kyushu-u.ac.jp/images/data/torikumi_05.pdf

九州大学における男女共同参画 [平成 22 年 4 月 1 日] から抜粋	
I. 基本理念	(略)
II. 基本方針	本学は、以下に掲げる基本方針に従い、その具体的方策の実施に努めるとともに、実施状況等を学内外に向けて公表します。各部局は、本学における基本理念や基本方針を踏まえ、部局における男女共同参画を推進するための方針を定め、その実現に向けて計画的に取り組むこととします。

1. 男女共同参画の意識の醸成と情報発信

(略)

2. 仕事と生活の調和・修学及び就業環境の整備

(略)

3. 国際的視点も含めた多様な価値観の尊重に関わる教育・研究の充実

(略)

4. 立案及び決定への男女共同参画の実施

教員、事務系職員を問わず、職位が上がるほど、女性の比率は低下する現状に対して、職位別の男女比率を改善していく積極的な取り組みを推進する必要があります。

特に教育・研究職及び管理運営業務における女性の参画の拡大は、男女共同参画において重要であり、本学は、男女構成のバランスを考慮した、女性研究者等の採用・昇任ならびに指導的地位への登用を推進し、立案及び決定への男女共同参画の実施を積極的に行います。

(略)

【根拠・参照資料】

・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：研究助成金（79-85 頁）

特色ある取組み

（評価の視点 3－10）

教員組織に関して、特色として強調すべき点、ないし検討課題はあるか。

教員組織としては専攻として主要と認められる必修科目は、医学研究院基礎医学部門の医療経営・管理学講座の教員 6 名が担当し、他の公衆衛生系の共通の基盤となる科目に関しては、医学研究院基礎医学部門の社会環境医学講座の教員 7 名と医学研究院医学教育部門の医学教育講座の教員 1 名が担当している。そして、臨床医療教育に関しては、医学研究院臨床医学部門の内科学講座の教員 1 名と外科学講座の教員 1 名、九州大学病院中央診療施設のメディカル・インフォメーションセンターの教員 1 名及び薬学研究院の教員 2 名が担当し、医療・経営管理学教育、公衆衛生系の共通の教育、臨床医療教育の三層にわたって適切な教員組織になっていることが特徴である。

表 3-10-A 専任の教員の担当科目と教員組織

科目の系統	科目の種別	科目	担当教員	所属
医療経営・管理学	必修専門科目	医療政策学	馬場園 明 教授	医療経営・管理学講座

医療経営・管理学	必修専門科目	医療財政学	尾形 裕也 教授	医療経営・ 管理学講座
医療経営・管理学	必修専門科目	医療経営学	尾形 裕也 教授	医療経営・ 管理学講座
医療経営・管理学	必修専門科目	医療管理学	鮎澤 純子 准教授	医療経営・ 管理学講座
医療経営・管理学	必修専門科目	医療コミュニケーション学 I	荒木 登茂子 教授 萩原 明人 教授	医療経営・ 管理学講座
医療経営・管理学	必修専門科目	演習 I, II	馬場園 明 教授 荒木 登茂子 教授 尾形 裕也 教授 萩原 明人 教授 鮎澤 純子 准教授 桑原 一彰 准教授	医療経営・ 管理学講座
医療経営・管理学	共通基礎科目	医療保障法	桑原 一彰 准教授	医療経営・ 管理学講座
医療経営・管理学	選択専門科目	医療経済学	尾形 裕也 教授	医療経営・ 管理学講座
医療経営・管理学	選択専門科目	医療マーケティング論	馬場園 明 教授	医療経営・ 管理学講座
医療経営・管理学	選択専門科目	医療人事管理 論	萩原 明人 教授	医療経営・ 管理学講座
医療経営・管理学	選択専門科目	病院管理論	鮎澤 純子 准教授	医療経営・ 管理学講座
医療経営・管理学	選択専門科目	ケアコミュニケーション論	荒木 登茂子 教授 須藤 信行 教授	医療経営・ 管理学講座 内科学講座
医療経営・管理学	選択専門科目	病院コミュニケーション論	荒木 登茂子 教授	医療経営・ 管理学講座
医療経営・管理学	選択専門科目	医療オーガナ イズ論	馬場園 明 教授	医療経営・ 管理学講座
医療経営・管理学	選択専門科目	医療コミュニケーション学	荒木 登茂子 教授 萩原 明人 教授	医療経営・

		ケーション学 II		管理学講座
医療経営・管理学	選択専門科目	医療分析学Ⅰ	桑原 一彰 准教授	医療経営・ 管理学講座
医療経営・管理学	選択専門科目	医療分析学Ⅱ	桑原 一彰 准教授	医療経営・ 管理学講座
医療経営・管理学	選択専門科目	医療制度改革 論	尾形 裕也 教授	医療経営・ 管理学講座
医療経営・管理学	選択専門科目	医療安全管理 論	鮎澤 純子 准教授	医療経営・ 管理学講座
他公衆衛生学	医療学基礎科 目	医学概論	馬場園 明 教授 荒木 登茂子 教授 尾形 裕也 教授 萩原 明人 教授 鮎澤 純子 准教授 桑原 一彰 准教授	医療経営・ 管理学講座
他公衆衛生学	共通基礎科目	医学統計学	古野 純典 教授	社会環境医 学講座
他公衆衛生学	共通基礎科目	社会医学	池田 典昭 教授 工藤 恵子 講師 辻 彰子 助教	社 会 環 境 医学講座
他公衆衛生学	選択専門科目	衛生学	清原 裕 教授 田中 昭代 講師 平田 美由紀 助教	社 会 環 境 医学講座
他公衆衛生学	選択専門科目	インフォーム ド・コンセン ト	菊川 誠 助教	医 学 教 育 学講座
臨床医療教育	医療学基礎科 目	内科学	須藤 信行 教授	内 科 学 講 座
臨床医療教育	医療学基礎科 目	外科学	前原 喜彦 教授	外 科 学 講 座
臨床医療教育	共通基礎科目	医療情報学	中島 直樹 准教授	九 州 大 学 病 院 中 央 診 療 施 設 メ デ ィ カ ル ・ イ ン フ ォ メ ー シ ョ ン セ ン

				ター
臨床医療教育	選択専門科目	薬学情報学	家入 一郎 教授 窪田 敏夫 准教授	薬学研究院 臨床薬学 学部門 臨床薬学講座

【根拠・参照資料】

別添基礎データ 表2 教員組織、表4 専任教員の教育・研究業績

〔点検・評価（長所と問題点）〕

本専攻は、専攻として主要と認められる必修科目は医学研究院基礎医学部門の医療経営・管理学講座の教員、他の公衆衛生系の共通の基盤となる科目は、医学研究院基礎医学部門の社会環境医学講座と医学研究院医学教育部門の医学教育講座、臨床医療教育に関しては、医学研究院臨床医学部門、九州大学病院中央診療施設及び薬学研究院の教員が担当し、適材適所で教育を行っているところが長所であると考えられる。

【根拠・参照資料】

・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（10-12 頁）

〔将来への取組み・まとめ〕

本専攻の目的は、「専門分化した医療技術を、『安心・納得・一体感』を持って支援できるよう、統合・調整・組織化できる高度な専門職業人を育成」することである。その目的を達成するために、当専攻の学生が医療経営・管理学を中心として学びつつ、公衆衛生や医療についても深く学ぶことを可能とする教員組織を構築している。今後も責任部局である医学研究院の教員と協力して、幅広い豊かな教育を行える教員組織を維持していきたい。

4 学生の受け入れ

[現状の説明]

学生の受け入れ方針等

(評価の視点 4-1)

専門職学位課程制度の目的に合致し、かつ、当該公衆衛生系専門職大学院固有の目的に則した学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)、選抜方法及び手続きが設定され、それが事前に入学志願者をはじめ広く社会に公表されているか。

学生の受け入れ方針、選抜方法及び手続きについては、「九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程(専門職大学院)学生募集要項」、「九州大学大学院 医学系学府 医療経営・管理学専攻」(パンフレット)、専攻のウェブサイトを示している。ここでは、表 4-1 に示すようにアドミッション・ポリシーについて明確に記述しているほか、九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻の概要、専攻の Vision、Mission、Values、Goal についても説明している。また、オープンスクールや公開講座で学生募集を行っている。

本専攻のアドミッション・ポリシーは、「九州大学大学院通則」に記載されている目的はもとより、高度専門職業人の養成という本専攻の目的を踏まえて、課程修了後の現場における貢献度・創造性・現実可能性の資質と能力を有する者を選抜の対象としている。これらは本専攻のホームページ並びに年報で公表している。

前期試験の科目は、外国語(英語)、小論文、面接試験、後期の試験科目は、学力試験(専門基礎知識)、小論文、面接試験であり、これらの科目に出願時に提出を義務付けている志望理由書を含めて、それぞれ 100 点満点で、総合得点の高いものから順に選抜している。ただし、1 科目でも 60 点未満の科目があれば不合格となる。前期と後期の科目が異なる理由は、英語は医療経営・管理学の知識の習得において重要な科目であるが、英語を選抜科目とすると医療職を幅広く選抜することができなくなるためである。そのために、後期は学力の担保として、英語の代わりに学力試験(専門基礎知識)を選抜科目として課している。外国人の受け入れに関しては、平成 18 年度に中国から 1 名、モンゴルから 1 名、平成 19 年度に中国から 1 名、平成 23 年度に中国から 1 名受け入れている。

以上のとおり、教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針等が記載された入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)が明確に定められ、公表・周知されているほか、説明会を開催し、入学希望者への周知を図っている。

表 4-1 本専攻のアドミッション・ポリシー

本専攻は、学外からの学生の受入はもちろん、社会人、海外留学生などあらゆる学士課程からの学生受け入れを積極的に行っている。

入学者の選抜方針は、「九州大学大学院通則」に規定されている大学院の目的はもちろん、高度専門職業人の養成という専門職大学院の目的をふまえて、研究計画のほか、課

程修了後の現場における貢献度・創造性・実現可能性の資質と能力を有する者を選抜の対象としている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-1 平成 25 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程（専門職大学院）学生募集要項（7-9 頁）
- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（1-4 頁）
- ・別添資料 1-3 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程 パンフレット
- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
学生募集要項 http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_4.html
- ・別添資料 2-3 九州大学大学院通則（2-3 頁）
- ・別添基礎データ 表 5 学生の受け入れ、表 6 学生定員及び在籍学生数

（評価の視点 4－2）

入学者選抜は、学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づいて行われ、実際の入学者選抜が、適切な実施体制により公正に実施されているか。

本専攻では、求める学生像や本専攻の目的に則した入学選抜の方法、入試科目、判定基準を「九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻入試の実施及び合格者の決定に関する内規」において定めており、入学選抜の方法については募集要項に明示している。また、過去の入試問題についても公表している（実費で希望者に配付している）。入学者の選抜は、「九州大学大学院医学系学府大学院委員会内規」、「大学院医学系研究科（分子生命科学系専攻を除く）入学者選抜に関する申合せ」及び上記の専攻の入試に関する内規等に定められた選抜方法や配点、評価基準に則して、本専攻の教授及び准教授で構成される判定会議及び「専攻運営会議」において厳正かつ公正に実施され、医学系学府の「大学院委員会」及び「教授会」の承認を経て決定されている。

なお、留学生に対しては、「外国人留学生特別選抜試験制度」を設け、その制度に則って資格審査及び入学試験を行い、外国人留学生を受け入れている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 4-1 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻入試の実施および合格者の決定に関する内規
- ・別添資料 4-2 九州大学大学院医学系学府大学院委員会内規
- ・別添資料 4-3 大学院医学系研究科（分子生命科学系専攻を除く）入学者選抜に関する申合せ

・別添資料 1-1 平成 25 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程（専門職大学院）学生募集要項（1-2 頁）

定員管理

（評価の視点 4－3）

入学定員に対する入学者数及び学生収容定員に対する在籍学生数が、適性に管理されているか。（「大学院」第 10 条）

本専攻の入学定員は 20 名、収容定員は 40 名である。入学者数は、平成 20 年度以降、21 人で推移しており、全ての年度で入学者数が入学定員を上回っている（表 4-3-A）。本専攻における、入学定員と実入学者との関係は、過去 3 年の入学者選抜の状況から判断して、適正である。

表 4-3-A 専攻の入学状況

2010 年度前期			2010 年度後期			2010 年度全体		
志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数
9 名	8 名	8 名	23 名	13 名	13 名	32 名	21 名	21 名
2011 年度前期			2011 年度後期			2011 年度全体		
志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数
16 名	8 名	8 名	14 名	13 名	13 名	30 名	21 名	21 名
2012 年度前期			2012 年度後期			2012 年度全体		
志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数	志願者数	合格者数	入学者数
8 名	6 名	5 名	22 名	16 名	16 名	30 名	22 名	21 名

【根拠・参照資料】

- ・別添基礎データ 表 5 学生の受け入れ、表 6 学生定員及び在籍学生数
- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：平成 24 年度入学者状況（31 頁）

入学者選抜方法の検証

(評価の視点 4－4)

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)・選抜基準・選抜方法等について、継続的に検証する取り組みが行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てるシステムがあるか。

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)・選抜基準・選抜方法等については、「入試委員会」が業務を担当している。年度毎に、入学試験の実施内容を、志願者数、受験科目、試験成績、合格者数等の観点から検討し、その結果を表 2-21-A で示される構成員からなる「講座教員会議」や表 2-21-B で示される構成員からなる「専攻運営会議」の場で報告し、検討している。その検討結果を踏まえ、システムを改善するため、入試会場や試験科目等の変更を行っている。さらに、3 年毎に修了生を対象に講義内容に関する卒業生アンケートを行っており、システム改善のための資料として活用している。

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)・選抜基準・選抜方法等について、医療経営・管理学講座教員全員で構成される「入試委員会」、教育に関係する教員全員から構成される「専攻運営会議」の場で継続的に検証され、システムを改善するシステムがある。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：入試委員会 (34 頁)
- ・別添資料 2-6 平成 22 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：卒業生アンケート調査結果 (36-45 頁)

特色ある取組み

(評価の視点 4－5)

入学者選抜に関して、特色として強調すべき点、ないし検討課題はあるか。

高度専門職業人の養成という本専攻の目的を踏まえて、研究計画のほか、課程修了後の現場における貢献度・創造性・現実可能性の資質と能力を有する者を選抜の対象としている。受験者層の特徴を考慮して、多様な人材を確保するため、入学者選抜試験を 9 月と翌年 1 月の前・後期に分けて実施し、前期の試験科目は英語、小論文、面接、後期は学力試験(専門基礎知識)、小論文、面接としている。また、平成 19 年度からは年に 2 回オープンキャンパスを実施し、専攻の紹介と模擬講義を行い、入試及び修学に関する質問に答えている。特に、参加者からの質問には、在学生在が答える機会も設けている。その結果、様々な分野から学生を受け入れており、医療系、非医療系の新卒者、社会人、留学生などの多様な人材が確保できている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位

課程年報：平成 24 年度入学者状況（31 頁）

【点検・評価（長所と問題点）】

本専攻の入学定員は 20 名、収容定員は 40 名に対して、入学者数は、平成 21 年度以降、毎年 21 人で推移しており、また、平成 23 年度の在籍学生総数は 3 年履修生を含めて 45 人であり、いずれも適正に管理され、「大学院設置基準」第 10 条を満たしている。さらに、平成 20 年度以降、本専攻の入学志願者数は収容定員の約 1.5 倍で安定的に推移している。

医療職者の業務実態を踏まえ職務経験を正當に評価するため、学生の選抜方法に関して、前期試験は英語、小論文、面接、志望理由書、後期試験は学力試験（専門基礎知識）、小論文、面接、志望理由書としている。これは英語のみの学力で入学者が偏って選抜されることを避け、すべての医療職種が受験しやすいようにしているためである。今後、公衆衛生分野への適性や高い潜在能力を有する学生を確保するため、入学志願者の一層の増加につながる選抜方法について、さらに工夫が必要と思われる。

【根拠・参照資料】

- ・別添基礎データ 表 5 学生の受け入れ、表 6 学生定員及び在籍学生数
- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：平成 24 年度入学者状況（31 頁）
- ・別添資料 1-1 平成 25 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程（専門職大学院）学生募集要項（1-2 頁）

【将来への取組み・まとめ】

学生の選抜方法については、オープンスクールでのアンケート調査の結果を踏まえた制度の改善をおこなう。卒業生アンケートの結果のフィードバックも継続的に行う。また、過去 5 年間の選抜方法の総合評価を実施する。総合評価の結果を踏まえ、必要に応じて今後の入試の見直しを行う。

5 学生生活

【現状の説明】

学生生活支援・指導体制

(評価の視点 5-1)

学生生活に関する支援・指導を行う体制が確立しており、各種の学生支援等が適切に行われているか。

学生生活全般については、入学時に医学系学府としてガイダンスを、また本専攻独自のオリエンテーションを行っている。入学時に学生全員に対して担任を定め、履修指導・学習相談を行っている。また、2年次における進路相談については、全学生を対象として進路選択オリエンテーションを毎年1月に行い、個々の学生に即して適切な指導及び助言を行っている。修了後の進路選択については演習と成果物作成における指導を通してゼミ指導教員が個別に相談を行っている。なお、必要に応じて「講座教員会議」において、教員全体で協議し、学生指導上の適切な対応について検討している。

この他、大学全体では、学生の心身両面での安全を守るためのパンフレットを配布して学生自身の注意を喚起している。またトラブルや問題を抱えた学生に対しては、担任が具体的なアドバイスとサポートが得られる体制を整えている。

健康相談に関しては健康科学センター内に健康相談室が設置されており、学業意欲・対人関係・進路その他様々な問題に関する対応を専門スタッフと共に模索していくことが可能となっている。生活・修学・進路相談に関しては、学生生活・修学相談室や「何でも相談窓口」が設けられている。また教員に対しては、学生が日常生活で直面しやすい問題点、メンタルヘルスに関する問題点、学生に接する際の留意点などをまとめた学生サポートブックが配布されている。

なお、医療経営・管理学講座の専任の教員2名（馬場園教授、桑原准教授）は、健康科学センターの非常勤講師も勤めており、専攻の学生が健康の問題を抱えた時は健康科学センターと連携して対応している。また、医療経営・管理学講座の専任の教員1名（荒木教授）は臨床心理士であり、専攻の学生が心理的な問題を抱えた場合には学内外の機関と連携して対応している。

表 5-1-A 学生の各種相談への対応

相談内容	相談・助言体制	備 考
健康相談	健康科学センター 健康相談室 (各キャンパス6カ所に設置) カウンセラー・精神科医・心療内科医・ 内科医・保健師などを配置	

生活・修学・進路相談	クラス指導教員	学生生活・修学相談室会議 ・セミナー、研修会（年1回） ・学生生活相談連絡協議会（年2回）
	学生生活・修学相談室 カウンセラー（3名）、学部・学府相談員	
	「何でも相談窓口」（各キャンパスに設置）	「何でも相談窓口」担当者連絡会議（年2回）

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-5 オリエンテーション資料「九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻の概要」
- ・別添資料 5-1 「あなたを守る道しるべ」平成24年4月1日発行 九州大学学務部
- ・別添資料 5-2 「教職員のための学生サポートブック」（2012年度改訂版）学生生活・修学相談室編集

各種ハラスメントへの対応

（評価の視点5-2）

各種ハラスメントに関する規定及び相談体制が適切に整備され、それらについて学生への周知が図られているか。

ハラスメントの防止・対策として、ハラスメントにあたる行為や問題の悪化を防ぐための防止策についての情報を提供している。

ハラスメントの防止と被害者の救済を担当する全学的組織として、「九州大学ハラスメント委員会規則」に基づき「ハラスメント委員会」が設置されるとともに、専門の相談機関として平成23年より「ハラスメント相談室」が設置され、相談・苦情申立てへの対応、アカデミック・ハラスメントやセクシュアル・ハラスメントの防止活動を実施している。

ハラスメント対策ガイドライン及び相談員の氏名や相談員専用のメールアドレスについては、本学ウェブサイトの「ハラスメントの防止・対策」に掲載している。又ハラスメント相談室のウェブサイトではハラスメント相談室への相談予約も行っている。

専攻では、オリエンテーションの時に各種ハラスメントへの対応について紹介するとともに、問題が発生した場合は担任に相談するように伝えている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 5-1 「あなたを守る道しるべ」平成24年4月1日発行 九州大学学務部
- ・別添資料 5-3 「STOP！ハラスメント 一緒に出口を探しましょう」九州大学ハラスメント相談室
- ・別添資料 1-5 オリエンテーション資料「九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学

専攻の概要」

- ・九州大学ウェブサイト

国立大学法人九州大学ハラスメント防止規程

<http://www.kyushu-u.ac.jp/university/harassment/index.php>

- ・九州大学ハラスメント委員会規則

<http://www.kyushu-u.ac.jp/university/harassment/index.php>

- ・九州大学ウェブサイト 九州大学ハラスメント相談室

<http://harassment-cc.kyushu-u.ac.jp/sitemap/index.html>

学生への経済的支援

(評価の視点 5－3)

学生が在学期間中に公衆衛生系専門職大学院の課程の履修に専念できるよう、奨学金その他学生への経済的支援について適切な相談・支援体制が整備されているか。

経済面の支援として、「入学料免除」、「授業料免除」が従前から設けられていたが、本学独自の取り組みとして、「授業料免除九大特別枠」を平成 17 年度から、「九大特別枠奨学金制度」を平成 18 年度から実施し、平成 19 年度から「再チャレンジ支援プログラム」による社会人入学者に対する授業料免除を開始している。対象者は原則として、表 5-3-A のとおり、家計の収入額を基準としている。

また、日本学生支援機構奨学制度、地方公共団体・民間奨学制度についての情報を提供して経済的支援をサポートしている。

なお、学生からの経済的支援については、担任が窓口となって対応を行っている。

表 5-3-A 授業料免除に係る収入・所得限度額目安表

			全額免除		半額免除	
課程	家族構成	通学状況	給与収入額 (千円) (注 1)	所得額 (千円) (注 2)	給与収入額 (千円) (注 1)	所得額 (千円) (注 2)
修士・専門職	1 人世帯	自 宅	2,657	1,240	3,885	2,100
	2 人世帯	自 宅	4,157	2,290	6,128	3,670
		自宅外	4,785	2,730	6,690	4,110
	3 人世帯	自 宅	3,814	2,050	6,057	3,620
		自宅外	4,442	2,490	6,640	4,060
	4 人世帯	自 宅	4,428	2,480	6,780	4,200
		自宅外	5,057	2,920	7,220	4,640
	5 人世帯	自 宅	4,885	2,800	7,230	4,650
		自宅外	5,514	3,240	7,670	5,090

注1 給与収入額とは源泉徴収票の支払金額欄、所得証明書では給与収入額欄であり、給与所得控除前の金額を指します。

注2 所得額とは確定申告等という売上金額から必要経費を差し引いた営業利益等の金額(所得金額欄)を指します。また、奨学金については給付奨学金のみ所得額に加算します。

表 5-3-B

入学料免除（半額免除）

2009 年度入学者	2010 年度入学者	2011 年度入学者	2012 年度入学者
3 名	0 名	0 名	0 名

表 5-3-C

授業料免除（半額免除）

	2010 年度		2011 年度		2012 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
一 般 枠	10 名	7 名	3 名	3 名	2 名	2 名
特 別 枠	0 名	1 名	1 名	0 名	0 名	1 名
合 計	10 名	8 名	4 名	3 名	2 名	3 名

表 5-3-D

奨学金受給状況（日本学生支援機構奨学金）

2010 年度入学者	2011 年度入学者	2012 年度入学者
1 名	3 名	2 名

【根拠・参照資料】

・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画（95-96 頁）

・九州大学ウェブサイト

経済支援 <http://www.kyushu-u.ac.jp/student/life/support.php>

進路等についての相談体制

（評価の視点 5－4）

学生の課程修了後を見越したキャリア形成の支援に関して、進路選択等のために必要な情報の収集・管理・提供、ガイダンス、指導、助言が適切に行われているか。

本専攻修了生を対象にした就職情報については、本講座が収集・管理し、掲示板やメールを利用して随時提供しており、修了生の進路先は年報で報告している。また、修了生が

就職している企業や専門職団体の就職説明会も行っている。就職状況に関するアンケート（就職先及び修了生対象）については、3年ごとに実施している。

なお、演習及び成果物作成は全学生の必修科目であり、特定の指導教員のもとで、具体的な研究課題に取り組む。したがって、学生は指導教員から、修了後の進路に合わせた学習指導を受ける態勢になっている。指導教員は演習や成果物作成の過程において医療機関との連携が可能な場合には、学生の希望に応じて就職先の門戸を広げられるように対応している。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：平成 23 年度卒業生の進路先（31 頁）
- ・別添資料 2-6 平成 22 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：卒業生アンケート調査結果（36-45 頁）
- ・別添資料 1-5 オリエンテーション資料「九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻の概要」

障がいのある者、留学生及び社会人学生等への支援

(評価の視点 5-5)

障がいのある者、留学生及び社会人学生等を受け入れるための適切な支援体制が整備され、学習支援・生活支援等が適切に行われているか。

大学全体として、障がいのある学生及び教職員への支援を行い、障がいのある学生が修学上不利を被ることのないよう体制の整備を進めており、九州大学健康科学センターや学生生活・修学相談室が支援を行っている。平成 21 年から 23 年までは障がいのある院生は在籍しなかったが、平成 16 年から 17 年に脊髄損傷の学生が在籍した時には、すべての講義をスロープとエレベーターのある総合研究棟で講義を行った。

外国人留学生に対しては、指導教員（指導教員が確定するまでの間は担任）が学習・生活上の相談等に対応している。また、九州大学留学生センターと連携を取りながら、奨学金関係や宿舎関係の情報を提供している。

【根拠・参照資料】

- ・九州大学健康科学センターウェブサイト <http://www.ihs.kyushu-u.ac.jp/>
- ・九州大学学生生活・修学相談室ウェブサイト <http://cg.rche.kyushu-u.ac.jp/>
- ・九州大学留学生センターウェブサイト
<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/program.htm>

特色ある取組み

(評価の視点 5-6)

学生生活への支援・指導に関して、特色として強調すべき点、ないし検討課題はあるか。

本専攻では学生全員に対して担任を定め、履修指導・学習相談を行っているのが特徴である。各学年約 20 名の学生に対し、医療経営・管理学講座の 6 人が担任を務めている。また、社会人学生の受け入れに関して、就業を前提として 3 年履修制度を設けており、活用されている。

表 4-5-A 各年度入学者の 3 年履修の人数(過去 5 年間)

平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
3 名	1 名	7 名	6 名	7 名

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-5 オリエンテーション資料「九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻の概要」

【点検・評価（長所と問題点）】

在学中の学生生活への支援や各種ハラスメントへの対応は、大学全体として整備されており、適切に運営されている。また、大学全体として、授業料免除制度や各種奨励事業制度を設け、学生に対する経済的支援を行っている。これらの経済的支援については、掲示板等で情報発信を行うとともに、窓口にて相談・支援を行っている。進路相談については、担任が中心となり、他の指導教員の協力も得ながら、対応している。本専攻修了生を対象にした就職情報については、本専攻学生控え室に掲示板を設け、随時掲示している。本専攻の学生に対する本専攻全体としての体系的な取組みとして、本専攻修了生によるネットワークを利用して就職説明会を行うなどの企画がなされている点は長所である。

【根拠・参照資料】

- ・九州大学健康科学センターウェブサイト <http://www.ihs.kyushu-u.ac.jp/>
- ・九州大学学生生活・修学相談室ウェブサイト <http://cg.rche.kyushu-u.ac.jp/>
- ・九州大学留学生センターウェブサイト
<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/program.htm>
- ・別添資料 1-5 オリエンテーション資料「九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻の概要」

【将来への取組み・まとめ】

本専門職大学院の学生に対する、修了後の進路に関する専攻全体としての体系的な取組の充実を図るため、これまでの修了生の就職先を中心に、就職先の人事担当者や本専攻出身者による説明会を持続的に開催すること、また、さらにネットワークを広げて、研究会なども開催して修了生との連絡を密にすることが挙げられる。

6 教育研究環境

[現状の説明]

教育形態に即した施設・設備

(評価の視点 6-1)

講義室、演習室及びその他の施設・設備が、当該公衆衛生系専門職大学院の規模及び教育形態に応じ、適切に整備されているか。(「専門職」第17条)

本専攻においては、教育研究に必要な施設・設備として、医療経営・管理学専攻棟の建物に、収容定員が25名の第一演習室、収容定員が15名の第二演習室、収容定員が5名の第三演習室並びに収容定員が15名の大学院生の自習室2部屋、専任教員の教員室を整備しており、これらは専用の施設である。また、「総合研究棟」に収容定員が25名の2部屋の「セミナー室」を確保しているが、これらは他学部や他専攻との共用である。当該「演習室」にはプロジェクターを設置し、パソコンを用いた本専攻の教育形態に対応できるよう整備している。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 6-1 医療経営・管理学専攻棟平面図
- ・別添資料 6-2 総合研究棟2階平面図

学生用スペース

(評価の視点 6-2)

学生の自主的学習のための環境（例えば、自習室、グループ討論室、情報機器室等。）及び学生相互の交流のための環境（例えば、学生ラウンジ等。）が整備されているか。

本専攻では、演習室1・2・3並びに大学院生の自習室2部屋を24時間開放しているが、専攻棟や各部屋の入口には電気錠等が設置されており、入館・入室にはパスワード、暗証番号等の入力が必要である。自習室の席数は約30席であり、共用のパソコンは8台設置している。

また、附属図書館医学図書館では、病院地区所属教職員・学生で開館時間外に入館を希望する者には、24時間利用専用のICカードを発行し、ICカード利用登録者のみ開館時間外の入館を許可している。なお、館内に学生が自由に利用できるパソコンが81台あり、調査やレポートが作成できる場や、グループで学習できる部屋を3部屋整備しており、学生のさまざまなニーズにあった学習環境を整備している。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 6-1 医療経営・管理学専攻棟平面図
- ・別添資料 6-2 総合研究棟2階平面図

研究室等の整備

(評価の視点 6－3)

専任教員の研究室の整備等、十分な教育研究環境が整備されているか。

医学研究院基礎部門医療経営・管理学講座の教員 6 名は医学系学府医療経営・管理学専攻棟に(個室 6)、社会環境医学講座 7 名は基礎 A 棟に(個室 5、共同 1:講座教員 2 名で共同)研究室が与えられている。

医学研究院臨床医学部門の内科学講座 1 名と医学研究院臨床医学部門の外科学講座 1 名は臨床研究棟に研究室が(個室 2)ある。医学研究院医学教育部門の医学教育講座 1 名(共同 1:大学院生と共同)、九州大学病院中央診療施設のメディカル・インフォメーションセンター 1 名は病院内に(共同 1:助教、技師、看護師、事務系職員等と共同)、薬学研究院の教員 2 名は薬学研究院等に研究室が(個室 1、共同 1:助教と共同)貸与されている。各専任教員には、教育研究に必要な研究スペース及び学内 LAN 等による電子ジャーナル利用などの環境が整備されている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 6-1 医療経営・管理学専攻棟平面図
- ・別添基礎データ表 8

情報関連設備及び図書施設

(評価の視点 6－4)

教員の教育活動及び研究活動並びに学生の学習のために必要な図書・学術雑誌・視聴覚資料等の資料及び情報インフラストラクチャーが適切に整備されているか。

九州大学附属図書館との連携により、新しい学術情報のあり方に適応する機能を備えるとともに、構成員のニーズに応じて効果的にサービスを提供している。附属図書館の蔵書数は 4,107,706 冊、雑誌所蔵種類数は 93,517 であり、アクセスできる電子ジャーナルは 63,000 タイトルを超えている。教員及び学生は学内蔵書目録検索(OPAC)、学外蔵書目録検索(WebCat Plus)及び文献検索データベース(医中誌 Web、PubMed、MEDLINE、Web of Science、CINAHL、SciFinder Web 版、JCR Web 版)で学内外の所蔵資料や文献に関する情報にアクセスすることができる。

また、附属図書館医学図書館の会議室には、電動スクリーン、吊下げ式液晶プロジェクター、セミナー室には VTR・DVD プレイヤー、グループ学習室には VTR・DVD プレイヤーが整備されている。なお、インターネット等による情報利用支援のため、情報統括本部により医学図書館に 81 台の端末(iMac)が設置されている。

医学図書館の開館時間は、平日は 9 時から 21 時、土・日曜は 9 時 30 分から 17 時であるが、学生や教職員は 24 時間入室可能な IC カードを発行してもらうことができる。大学院生の貸出の制限冊数は 5 冊までであり、本の貸出期間は 8 日まで、雑誌は 2 日までである。

表 6-4-A 附属図書館医学図書館における資料の選定方法

医学図書館医学分館運営委員会において最終決定する。

具体的な選書方法は年により異なる。(例えば、各講座の教授から推薦してもらう、運営委員を通じて学生の希望調査をおこなう、国外の主要な大学で採用されている標準的なテキストを調査する等)

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 6-3 九州大学附属図書館年報 2011/2012
- ・別添資料 6-4 九州大学医学図書館利用案内

人的支援体制の整備

(評価の視点 6－5)

当該公衆衛生系専門職大学院固有の目的に沿った優れた人材を育成するために、教育活動及び研究活動に資する人的な補助体制が適切に整備されているか。

「医療人間学」「疫学」「医療財務管理論」については、外部講師の協力を得ている。その他、本専攻の学生及び教員に対して必要な事務支援は、医系学部等学務課大学院係を通じて行われている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画 (10-12 頁)

特色ある取組み

(評価の視点 6－6)

教育研究環境の整備に関して、特色として強調すべき点、ないし検討課題はあるか。

非医療系学生に対しては医療経営・管理学を学ぶために必要な医学的な知識が体系的に習得できるように配慮されており、内科学、外科学を中心に医療現場に直接触れる機会が設けられている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-2 平成 24 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程授業計画 (5 頁)

【点検・評価（長所と問題点）】

専門職大学院棟に「演習室」を 3 部屋、「総合研究棟」に 2 部屋「セミナー室」を確保しており、「専門職大学院設置基準」第 17 条を満たしている。

上記以外にも、「専門職大学院棟」に本専攻学生専用の「学生控室」を2部屋確保しており、自習、グループ討論、各種情報の掲示スペース等に加えて、医学部・医学系学府所属学生のための共通自習室が医学図書館内に設置されている。また、本専攻の専任教員に対して、教育研究に必要な研究スペース及び学内 LAN 等による電子ジャーナル利用などの環境が整備されている。総じて、本専攻の教育研究を支障なく遂行するための施設設備が整備されている。また、人的支援体制についても整備されており、機能的に運用している。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 6-1 医療経営・管理学専攻棟平面図
- ・別添資料 6-2 総合研究棟2階平面図
- ・別添資料 6-3 九州大学附属図書館年報 2011/2012
- ・別添資料 6-4 九州大学医学図書館利用案内

【将来への取組み・まとめ】

スペース等の活用の工夫や外部資金の獲得を通して、引き続き、施設設備や人的支援体制の整備に努める。

7. 管理運営

事務組織の設置

(評価の視点 7-1)

当該公衆衛生系専門職大学院を管理運営し、その固有の目的の達成を支援するため、適切な規模と機能を備えた事務組織を設置しているか。 (「大学院」第 35 条)

本専攻では、管理運営の組織として、「医学研究院教授会」、「医学系学府教授会」の下に「専攻運営会議」及び「講座教員会議」を設けている。「専攻運営会議」では、毎月、本専攻の目的の達成、管理運営上の必要事項等を検討し、実行している。「講座教員会議」では、毎週、専攻の教育に関する庶務事項についての話し合いをおこなっている。事務組織については、医系学部等事務部の下に総務課を始め 4 課体制で専攻における管理運営の支援を行っている。これらの組織において審議・決定する主な内容は、表 7-1-A に示す。

表 7-1-A 本専攻が所属する組織における主な審議・決定内容

組織	主な審議・決定内容
医学研究院教授会 (各種委員会等)	○医学研究院の研究、管理、運営、教員人事、 予算及びその他重要事項 選考委員会、予算委員会等
医学系学府教授会 (各種委員会等)	○医学系学府の教育に関する重要事項 大学院委員会等
専攻運営会議	○医療経営・管理学専攻の教育・研究、管理・運営その他 重要事項
講座教員会議	○医療経営・管理学専攻の教育に関する庶務事項
医系学部等事務部	○医学研究院、医学系学府及び関係部局の教育及び研究支援業務

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 7-1 医療経営管理学運営会議内規
- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：運営会議議事録 (39-46 頁)
- ・別添資料 7-2 九州大学部局事務部事務分掌規程 (2-3 頁)

学内体制・規程の整備

(評価の視点 7-2)

当該公衆衛生系専門職大学院の教学事項に関する意思決定及び管理運営を行うための組織体制が整備されるとともに、その活動を支える規程が設けられ、運用が適切に行われているか。

教学事項に関する意思決定及び管理運営を行うための組織体制は、医学研究院に属する教員全員で構成される「医学研究院教授会」、医学系の大学院に関連する教員全員で構成さ

れる「医学系学府教授会」、医療経営・管理学専攻の教育に関連する教員全員で構成される「専攻運営会議」、医療経営・管理学講座全員で構成される「講座教員会議」、医療経営・管理学講座の教員で構成される各種委員会（総務、人事、教務、入試委員会）がある。それぞれの規定が、組織体制の迅速かつ効果的な意志決定を機能、実現させている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 7-1 医療経営管理学運営会議内規
- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：各委員会報告（32-34）

関係組織等との連携

（評価の視点 7-3）

行政機関、非政府組織、非営利組織、企業、その他外部機関との連携・協働が適切に実施されているか。また、当該公衆衛生系専門職大学院と関係する学部・研究科等が設置されている場合、そうした組織との連携・役割分担は適切に行われているか。さらに、他の公衆衛生系専門職大学院との連携等は適切に行われているか。

福岡県医療介護部・福岡県 医師会・社団法人福岡県看護協会・九州大学病院・田川市立病院・熊本済生会病院など行政機関、非政府組織、非営利組織と教育に関するプログラム、各種研修会、各種委員会などで協力している。東京大学、京都大学の公衆衛生系専門職大学院とも公衆衛生大学院現状に関する発表や意見交換を公衆衛生学会等で連携して行い、「大学基準協会」の「公衆衛生系専門職大学院認証評価委員会」の認証評価に参画している。さらに、当講座の教員は東京大学、京都大学の公衆衛生大学院の講義を非常勤講師として行っている。また、当専攻は、当大学の経済学府産業マネジメント専攻、法務学府実務法学専攻、及び人間環境学府実践臨床心理学専ととともに、平成 17 年度に専門職大学院間の連携組織として「専門職大学院コンソーシアム」を創設し、「相互履修制度」を継続するとともに、公開講座を共催するなど、連携組織としての活動を継続している。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：専門職大学院コンソーシアム(32 頁)、平成 23 年度教育の質と向上支援プログラム（EEP）実績報告、非常勤講師等（37、88-93）
- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
専門職大学院プログラム
http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_15.html

特色ある取組み

(評価の視点 7-4)

管理運営に関して、特色として強調すべき点、ないし検討課題はあるか。

当専攻の教員は、常に公衆衛生系専門職大学院の教育研究の質向上に関心を置き、公衆衛生系専門職大学院基準の評価の視点を意識した教育研究活動に努めるとともに、評価項目に関する自己点検・評価を行い、点検評価のための根拠資料を議事録として作成するように配慮していることが、管理運営上の特色として強調すべき点である。

【根拠・参照資料】

・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：医療経営・管理学専攻自己点検・自己評価 (47-69)

〔点検・評価（長所と問題点）〕

本専攻の管理運営は、教育研究に関する本専攻の目的達成のために、「専攻運営会議」が月に 1 回、「講座教員会議」が毎週開催され、その時々の問題の認識共有と解決に向けた議論を行い、長所であり、その管理運営手法は「大学設置基準等」第 8 条 5 項を満たしている。

【根拠・参照資料】

・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：医療経営・管理学専攻運営会議議事録 (39-46 頁)、自己点検・自己評価 (47-69)

〔将来への取組み・まとめ〕

学生のバックグラウンドが広範であること、教育内容が学際的な分野であり、問題の共有と解決が重要であることを認識し、6 名の医療経営・管理学講座の教員を中心に「専攻運営会議」で教育内容の改善に向けて話し合い、実行している。今後も、教育研究に果敢に取り組んでいきたい。

8. 点検・評価及び情報公開

自己点検・評価

(評価の視点 8-1)

自己点検・評価のための仕組み及び組織体制を整備し、適切な評価項目及び方法に基づいた自己点検・評価を、組織的、継続的な取り組みとして実施しているか。(「学教法」第 109 条)

「専攻運営会議」で医療経営・管理学講座の教員から構成される「医療経営・管理学専攻自己点検・評価委員会」を組織し、1 年間の教育活動状況及び教育方法の改善点をまとめ、それらを毎年「年報」にまとめている。また、平成 15 年、平成 16 年に行政、医師会、学識経験者、患者代表、ジャーナリストなどから構成される外部評価委員による第 3 者の評価を受けている。自己点検及び評価結果についても開示している。さらに、平成 20 年度には、「専門職大学院認証評価の代替措置の指針(平成 19 年 3 月 15 日大学評価委員会決定)」に基づき、「外部評価委員会」による教育研究活動の総合的な状況に関する評価を実施し、自己点検・評価書、実施評価報告書、実施要領は、当専攻のウェブ・ページで公開している。

なお、九州大学では、中期計画に基づく各年度の年度計画の実施状況についての自己点検・評価を、学校教育法第 109 条第 1 項の自己点検・評価と位置づけ、実質的な点検・評価を行っている。「国立大学法人評価に当たっては、医学研究院自己点検・評価委員会のもと本専攻についての現況調査表を作成している。また、本学では、教員業績評価の実施に係る大学全体の基本的枠組みを総長裁定として定め、平成 20 年度から、全部局において全教員を対象とした評価を行っている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 8-1 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻自己点検・評価委員会内規
- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：九州大学大学院医学系学府医療経営管理学専攻自己点検・自己評価報告(47-69 頁)
- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
自己点検評価・外部評価
http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_12.html

(評価の視点 8-2)

自己点検・評価の結果を、学内外に広く公表しているか。(「学教法」第 109 条)

毎年、教育・研究に関する活動状況や授業評価を受け教育の改善内容を専攻自己点検報告として「専攻運営会議」に報告し、「年報」にまとめて、それを医療経営・管理学専攻の

ホームページで公開している。今回の自己点検・評価書、実施評価報告書、実施要領についても、当専攻のウェブ・ページで公開する予定である

【根拠・参照資料】

- ・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト
年報・パンフレット http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/archives/cat_11.html

改善・向上のための仕組みの整備

(評価の視点 8-3)

人材輩出先となる領域の関係者や修了生等から、意見や専門職域に関する社会のニーズ等を聴取し、適切に自己点検・評価に反映する仕組みが整備されているか。

修了生及び修了生が所属する職場上司に、表 2-20-A に示すように当講座の意義や希望することに関して組織的にアンケート調査を行うなど、社会のニーズを聴取している。それを「専攻運営会議」で報告し、対応を討議し、医療経営・管理現場に役に立つための調査、ケーススタディ、ケースメソッド、教材作成を卒業成果物として重視するなど教育内容の改善に役立てている。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 2-6 平成 22 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：卒業生アンケート調査結果 (36-45 頁)
- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：第 3 回運営会議議事録 (40 頁)

自己点検・評価結果に基づく改善・向上

(評価の視点 8-4)

自己点検・評価の結果がフィードバックされ、当該公衆衛生系専門職大学院の教育活動及び研究活動改善・向上に有効に結び付けられているか。

毎年、前年の教育活動の自己点検を踏まえた改善内容を授業に反映させ、その教育活動の評価を学生から受け、さらに自己点検・評価を行うという、PDCA サイクルを回している。学生の講義アンケートや卒業生アンケートにおける要望は、講義内容及び講義方法にわたるが、講義内容としては医療現場に直接役に立つものを要望し、講義方法としては参加型の講義を要望する傾向にある。「専攻運営会議」で、その要望を認識し、毎年、学生の要望を満たすように講義を改善し、年報で報告している。学生アンケートの結果、海外の医療制度を講義内容に含めたり、ケーススタディの例を増やしたり、参考文献の紹介を詳しく行うなど、教育にフィードバックがなされている。

【根拠・参照資料】

・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：講義評価アンケートに基づいた講義内容の改善（3-7 頁）

情報公開

（評価の視点 8-5）

当該公衆衛生系専門職大学院の教育活動及び組織運営並びにその他の活動の状況について、学生、志願者及び一般社会が正しく理解できるよう、ホームページや大学案内等を利用して適切に情報公開を行っているか。

ホームページでは、当専攻の目的・使命、教育内容、教員の授業内容、研究、社会的活動状況、学生募集要項、修了生の進路先、年報、パンフレット、自己点検評価・外部評価、公開講座、教育教材開発事業などの情報公開を行っている。パンフレットでも。当専攻の目的・使命、教育内容、時間割、修了生の進路先、卒業成果物のタイトルなどの情報公開を行っている。また、所属大学院生が公開講座に参加して当講座の教育内容を当講座志願者に直接答えるよう工夫をしている。

【根拠・参照資料】

・別添資料 1-3 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程 パンフレット（1 頁）

・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報

・九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻ウェブサイト

<http://www.hcam.med.kyushu-u.ac.jp/>

特色ある取組み

（評価の視点 8-6）

点検・評価及びそれに基づく改善・向上の取組み、情報公開に関して、特色として強調すべき点、ないし検討課題はあるか。

「大学基準協会」の「公衆衛生系専門職大学院認証評価」の評価項目に即して自己点検・評価を継続的に行い、それを医療経営・管理学専攻のホームページに情報公開していることが特色として強調すべき点といえる。

【根拠・参照資料】

・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：医療経営・管理学専攻自己点検・自己評価（47-69）

〔点検・評価（長所と問題点）〕

学生による授業評価アンケートを全ての講義について毎学期実施するとともに、修了生に対する卒業生アンケート調査等を実施し、これらの資料に基づき、「専攻運営会議」等において教育方法等に関する点検・評価を不断に実施している点が評価できる。当専攻の教育活動及び自己点検・評価については、毎年、年報で公表するとともに、ホームページにも掲載している。これらのことは、「学校教育法」第 109 条に合致している。

【根拠・参照資料】

- ・別添資料 8-1 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻自己点検・評価委員会内規
- ・別添資料 2-4 学生による授業評価アンケート報告【2011 年度】
- ・別添資料 1-6 平成 23 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：講義評価アンケートに基づいた講義内容の改善、院生の成果物の抄録(3-28 頁)
- ・別添資料 2-6 平成 22 年度九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程年報：講義評価アンケートに基づいた講義内容の改善、院生の成果物の抄録(3-26 頁)、卒業生アンケート調査結果(36-45 頁)

〔将来への取組み・まとめ〕

学生に社会人が多く、学生のバックグラウンドが広範であること、また、医療制度改革が急速に進行していることを鑑みると、専門職大学院としてニーズにマッチした教育を行うには、常に学生や社会とのコミュニケーションが重要である。今後も、学生による授業評価アンケートを全ての講義について毎学期実施するとともに、卒業生アンケート調査等を実施し、「専攻運営会議」で改善点を討議し、教育内容に反映させ、これらの事項については、年報及びホームページでも引き続き公表を行っていきたい。

(終章)

この度の自己点検・評価によって、本専攻は教育研究目的に応じた体制のもとで適正に運営されており、「大学基準協会」の定める評価項目に関する事項については、すべての点について基準を遵守していることが確認できた。

医学系学府医療経営・管理学専攻の目的は明文化されており、目的の周知について、教職員に対しては、刊行物の配付、「専攻運営会議」での審議等を通じて周知が図られている。本専攻の目的については、本専攻の学生募集要項、授業計画、パンフレット及びウェブサイトに掲載し、学生、教員に周知を図っているほか、公開講座等でも社会に向けて発信している。

中期目標としては、「保健医療の実践にあたり中心的役割を担えるよう、専門的知識を持った人材を養成する」ことと、「現場の問題に対し、目的を明確にし、具体的に対策を組み立て、結果を評価し、改善する能力を育成する」ことを目標として掲げている。そのために、ゼミ活動においては、現場の問題に対し、具体的に対策を組み立て、結果を評価し、改善する能力を育成している。

「医療経営・管理学修士（専門職）」の学位の授与に関わる基準及び審査手続き等は、「九州大学大学院通則」、「九州大学大学院医学系学府規則」、学生募集要項及びシラバス等に明記するとともに、入学時のガイダンス及び本専攻独自のオリエンテーションを通じて学生に周知している。また、学位授与に関わる審査は、「医学系学府規則」に定められた手続きにより、厳格かつ公正に行われている。以上から、本専攻の学位授与等については、「専門職大学院設置基準」第10条第2項を満たしている。

修了生の進路については、約9割以上が想定された分野（医療機関、行政、NPO、シンクタンク、企業、大学、研究所）に就職していることから、公衆衛生に関わる広範な領域において活躍し得る高度専門職業人を輩出していると評価できる。

本専攻は、専攻として主要と認められる必修科目は医学研究院基礎医学部門の医療経営・管理学講座の教員、他の公衆衛生系の共通の基盤となる科目は、医学研究院基礎医学部門の社会環境医学講座と医学研究院医学教育部門の医学教育講座、臨床医療教育に関しては、医学研究院臨床医学部門、九州大学病院中央診療施設及び薬学研究院の教員が担当し、学生が医療経営・管理学を中心として学びつつ、公衆衛生や医療についても深く学ぶことを可能とする教員組織を構築している。

本専攻の入学定員は20名、収容定員は40名に対して、入学者数は、平成21年度以降、毎年21人で推移しており、また、平成23年度の在籍学生総数は3年履修生を含めて45人であり、いずれも適正に管理され、「大学院設置基準」第10条を満たしている。

在学中の学生生活への支援や各種ハラスメントへの対応は、大学全体として整備されており、適切に運営されている。また、大学全体として、授業料免除制度や各種奨励事業制度を設け、学生に対する経済的支援を行っている。本専攻修了生を対象にした就職情報については、本専攻学生控え室に掲示板を設け、随時掲示している。また、本専攻修了生に

よるネットワークを利用して就職説明会を行うなどの企画がなされている点は長所である。

専門職大学院棟に「演習室」を3部屋、「総合研究棟」に2部屋「セミナー室」を確保し、教育形態に対応できる機材を整備するとともに、専門職大学院棟には「大学院生自習室」が2部屋。24時間使用できる状態にあり、「専門職大学院設置基準」第17条を満たしている。

学生による授業評価アンケートを全ての講義について毎学期実施するとともに、卒業生アンケート調査等を実施し、これらの資料に基づき、「専攻運営会議」等において教育方法等に関する自己点検・評価を不断に実施している点が評価できる。当専攻の教育活動及び自己点検・評価については、毎年、年報で公表するとともに、ホームページにも掲載している。これらのことは、「学校教育法」第109条に合致している。自己点検・評価の結果は、関係会議での報告並びに、年報やウェブ・ページへの掲載により広く内外に公開している。

学生に社会人が多く、学生のバックグラウンドが広範であること、また、医療制度改革が急速に進行していることを鑑みると、専門職大学院としてニーズにマッチした教育を行うには、常に学生や社会とのコミュニケーションが重要である。今後も、学生による授業評価アンケートを全ての講義について毎学期実施するとともに、卒業生アンケート調査等を実施し、「専攻運営会議」で改善点を討議し、教育内容に反映させ、これらの事項については、年報及びホームページでも引き続き公表を行っていききたい。そして、今後も責任部局である医学研究院の教員と協力して、幅広い豊かな教育を行える教員組織を維持していききたい。

以上